令和４年度

消防年報

善通寺市消防本部

（令和５年刊行）

市民憲章

私たちは、文化の香りたかい
善通寺市民であることに誇りと責任を感じ、
健康で明るく豊かな郷土を
つくることにつとめます。

一、仕事を愛し、明るい家庭を築きましょう。

一、ねばり強く、心身の鍛錬に努めましょう。

一、教養をたかめ、美しい環境をつくりましょう。

一、きまりを守り、よい習慣を育てましょう。

一、お互いを理解しだれにも親切にしましょう。

昭和４３年９月２８日制定

はしがき

１．　この年報は、善通寺市消防本部・署の消防行政をひろく市民に紹介するとともに、将来の参考に資するため、本市消防の現勢及び消防業務の内容、災害統計などを収録編さんしました。

２．　統計については、人事、予算関係を会計年度（令和４年４月１日から令和５年３月３１日まで）とし、災害統計は暦年（令和４年１月１日から令和４年１２月３１日まで）で集計を行い、その他は必要に応じて当該表の右上に基準日を表示しました。

令和５年７月

善通寺市の概要

（昭和 29 年 10 月 4 日制定）

市章

善通寺市の「ゼ」の字をモチーフに作られたものです。

（昭和 48 年 11 月 1 日制定）

市の木

市の歴史を語る木として制定されました。
総本山善通寺の境内には 2 本の大楠があります。

１．地形・地質

善通寺市は香川県西方北よりに位置し我が国文化の大恩人弘法大師（空海）の生誕地として真言宗総本山善通寺をはじめ市内各所に宗教的霊地としての史跡がある。

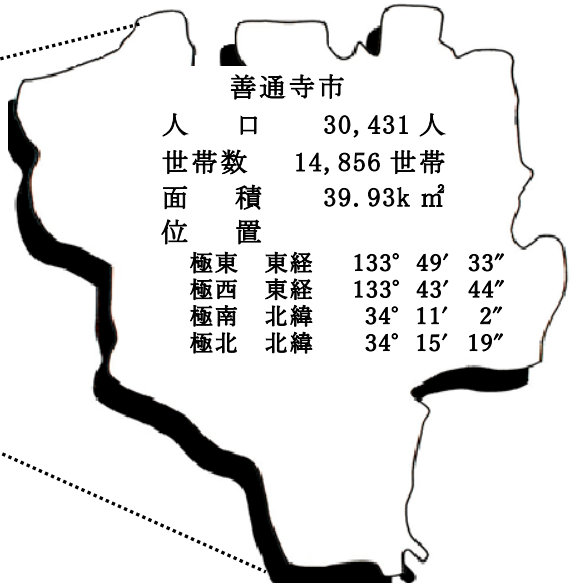
東は大師ゆかりの満濃池の水を瀬戸内海へ運ぶ金倉川を経て丸亀市に接し、西は大麻山の麗姿と天霧山の峻厳を南北に、秀峰五岳を連ね三豊市と接している。

南は航海の安全を守る金比羅宮のある琴平町に接し、北は瀬戸内海臨海工業地のある多度津町に隣接している。

近代都市として西讃平野の中央部に位置し、産業、教育、文化及び四国横断自動車道のインターチェンジもあり物流基地としての役割も大きく陸の要衝となっている。

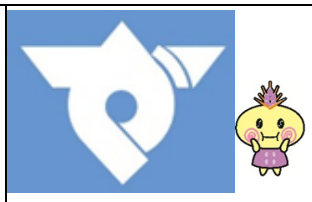
２．気候

瀬戸内海気候に属しており、温暖寡雨で冬期は比較的暖かく、平地での積雪はめったに見られません。自然災害も極めて少なく、絶好の自然条件を備えています。



一目統計

令和５年３月 31 日



地　勢		予　算	消防職員		消防団員	
面　積	39.93K ㎡	消防予算（千円）	定数	41 人	定数	390 人
人　口	30,431 人	448,345	実員	41 人	実員	375 人
世帯数	14,856 世帯		（女性）	2 人	（女性）	42 人

消防庁舎	車　両		消防水利	
消防本部　1 本部	ポンプ車	2 台	消火栓	790 個
消防署　　1 署	水槽付ポンプ車	1 台		
鉄筋コンクリート造 5 階建て	屈折はしご車	1 台	防火水槽	計 100 個
平成 27 年 9 月 30 日竣工	救助工作車	1 台	50ｔ未満	86 個
延床面積　2972.85 ㎡	救急車	3 台	50ｔ以上 100ｔ未	3 個
	火災原因調査車	1 台	満 100ｔ以上	11 個
	指揮支援車	1 台		

防火対象物		危険物施設		自主防災組織状況	
防火対象物	1,360 棟	合　計	90 施設	少年消防クラブ	15 名
特定用途防火対象物	290 棟	貯蔵所	60 施設	婦人防火クラブ	401 名
		取扱所	30 施設	危険物安全協会	54 事業所

令和４年中

火　災		出火原因		救　急	救急種別		救　助	
合計	14 件	1 位　たき火	5 件	出場件数	急病	1,033 件	合計	15 件
建物	5 件	2 位　配線等	2 件	1,610 件	交通事故	106 件	交通	11 件
林野	0 件	3 位　その他	4 件	搬送人員	一般負傷	248 件	機械事故	1 件
車両	3 件	（不明）	3 件	1,485 人	その他	223 件	その他	3 件
その他	6 件						救助人員	11 人

目　　次

総　務

１．消防の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
２．市予算と消防予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
３．消防予算と決算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
４．人口・世帯数に対する消防費（決算）・・・・・・・・・・・・・・・・　9
５．消防相互応援協定等の締結状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10
６．消防組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11
７．消防機関配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12
８．消防の事務分掌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13
［１］消防本部の事務分掌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13
［２］消防署の事務分掌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
９．消防職員配置状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
１０．歴代消防長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17
１１．歴代消防署長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18
１２．消防職員任用及び退職状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19
１３．消防職員勤続年数状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19
１４．消防吏員特殊技能資格取得状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20
１５．消防職員初任給・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
１６．消防職員諸手当支給状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
１７．消防吏員研修状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22
１８．消防団員階級別人員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23
１９．歴代消防団長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23
２０．消防団員編成表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23
２１．消防団員勤続年数状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24
２２．消防団員年齢状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24
２３．消防団員任用及び退職状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25
［１］級別退職状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25
［２］年度別退職状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
２４．消防団員退職報償金支給状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
［１］階級別支給状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
［２］年度別支給状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27
２５．消防団員報酬等支給状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27

予　防

１．防火対象物と防火管理者選任義務対象物状況・・・・・・・・　28
２．消防用設備等の点検報告対象物状況・・・・・・・・・・・・・　29
３．指定数量別危険物施設状況・・・・・・・・・・・・・・・・・　30
４．危険物関係事務処理状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31
５．消防関係手数料徴収状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・　32
６．各種届出事務処理状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
７．中高層建築物用途別棟数・・・・・・・・・・・・・・・・・・　34
８．建築同意処理状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　34
９．用途別同意処理状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　35
１０．自主防災組織状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　36

消防防災

１．消防機械配置状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　37
２．署の自動車種別表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　37
３．団の自動車種別表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　38
４．小型動力ポンプ種別表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　39
５．消防機械等経過年数状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・　40
６．消防水利施設状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　40
７．有線通信設備状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　41
８．無線通信施設状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　41
９．消防団専用署活動無線機設置状況・・・・・・・・・・・・・・　43
１０．消防団専用トランシーバー設置状況・・・・・・・・・・・・　43

火災統計

１．火災一目統計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　44
２．過去１０年間の火災発生件数と損害額の推移・・・・・・・・　44
３．火災概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　45
４．月別種類別火災状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　46
５．火災状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　47
［１］曜日別出場件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　47
［２］時間別出場件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　47
［３］覚知別出場件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48
［４］初期消火状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48
［５］主に利用した水利・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48
６．気象別火災状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49

［１］天気別火災状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
［２］気温別火災状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
［３］湿度別火災状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
７．火災損害額状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
［１］原因別出火状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
［２］過去 10 年間の出火原因・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
［３］建物火災用途別損害額・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

救急統計

１．救急一目統計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
２．過去 10 年間の救急出場件数と搬送人員の推移・・・・・・・ 52
３．月別事故別救急出場及び搬送状況・・・・・・・・・・・・・ 53
４．傷病程度別搬送状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
５．時間別救急出場状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
６．覚知別救急出場状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
７．収容者住所別搬送状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
８．校区別出場状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
９．時間別救急出場状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
１０．曜日別出場件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
１１．現場到着所要時間別出場状況・・・・・・・・・・・・・・ 57
１２．収容所要時間別搬送状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
１３．年齢区分別搬送状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
１４．救急隊員の行った応急処置・・・・・・・・・・・・・・・ 59
１５．不搬送理由別状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
１６．四国横断自動車道における出場状況・・・・・・・・・・・ 60

救　　助

１．事故種別件数及び搬送人員・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
２．救助体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
３．事故種別救助出場件数状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
４．年別救助出場件数及び出場件数状況・・・・・・・・・・・・ 61

総　務

1.消防の沿革

明治	
34.11	善通寺村、麻野村、吉田村を合併し町制施行善通寺町となる。
37. 1	善通寺町消防組を設置し、組頭1名、小頭4名、消防手60名で警備に当った。

大正	
12. 5	香川県消防組演習が善通寺練兵場において梨本宮殿下御台臨のもと盛大に実施された。(参加消防組36組　1,061名)

昭和	
14. 4	警防団令の公布により善通寺町警防団と改称し、7ヶ分団に編成し消防業務および防空救護に従事した。
19. 8	四輪消防ポンプ自動車(フォード1936年式)1台を購入して第5分団に配置した。
20. 9	四輪消防ポンプ自動車(ニッサン1942年式)1台を旧陸軍から払い下げをうけ第4分団に配置した。
22. 5	消防団令の公布により善通寺町消防団と改称した。
23. 3	消防組織法の施行により、自治体消防となる。
28. 5	高松宮殿下御臨席のもと保安隊善通寺駐屯部隊第1キャンプにおいて、香川県消防大会が開催され香川県消防協会長から竿頭綬を授与された。
28. 5	優良消防団として香川県知事から竿頭綬を授与された。
29. 3	善通寺町、与北、竜川、筆岡、吉原各村を合併し市制施行善通寺市となる。(善通寺市消防団と改称した。)
31. 4	合併による消防団(19ヶ分団、団員561名)を9ヶ分団、団員360名に再編成した。善通寺市消防本部を設置(本郷通り、市庁舎内)し、常勤職員1名を配置した。
31. 5	優良消防団として香川県消防協会長から竿頭綬を授与された。
31. 6	消防職員2名の増員と嘱託消防士(非常勤)20名を配置するとともに、消防ポンプ自動車(ニッサン　ジープ・プリンス)2台を購入して常備消防の基礎を確立した。
32. 3	消防本部庁舎木造平屋建50㎡を生野町1,161番地市役所構内に新築した。
33. 3	象郷村を合併し、消防団員5名を吸収して定員365名とした。
34. 1	消防職員を定数7名とした。
35. 1	消防団にキリン館火災防ぎょの功により善通寺市長から表彰状を授与された。
36. 4	消防職員を定数11名とした。
36.11	第3回全国消防大会参加記念に香川県消防協会長から竿頭綬を授与された。
37.11	消防ポンプ自動車(ニッサン　パトロール)1台及び無線機(基地局・移動局)を購入し消防本部に配置した。
38. 2	優良消防団として日本消防協会長から竿頭綬を授与された。
40. 4	政令指定(昭和39年)に基づき消防署を併設し、善通寺町648番地の69に移転し消防職員を定数20名とした。
41. 1	消防団に台風第23号、第24号の災害防止の功により善通寺市長、善通寺市議会議長からそれぞれ感謝状を授与された。
42. 2	優良消防団として日本消防協会長から表彰旗を授与された。
42. 6	消防団に台風第23号、第24号の災害防止の功により全国防災協会長から表彰状を授与された。
43. 9	消防ポンプ自動車(ニッサン A-2級)1台及び無線機(移動局)を購入し消防署に配置した。
43.11	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車(火災保険号　ニッサン BD-I型A-1級)1台が消防署に寄贈された。
43.11	自治体消防制度20周年記念式典挙行、優良消防団として善通寺市長、善通寺市議会議長からそれぞれ感謝状を授与された。
44. 4	消防職員を定数26名とした。

昭和

45. 2　政令指定(昭和44年)に基づき救急自動車(トヨタA級)1台を購入し消防署が救急業務を開始した。
45.12　消防署の中短波無線機を超短波無線機に切り替えるため基地局(10W)1台、移動局(5W)1台を購入した。
46.10　消防職員を定数30名とした。
46.12　火災保険号に超短波無線機移動局(10W)を装備した。
47. 6　日本消防協会から広報車(三菱　ギャランバン)1台が消防署に寄贈された。
47. 8　小型動力ポンプ積載車6台を購入し、第4分団(1台)、第5分団(2台)、第6分団(2台)、第7分団(1台)にそれぞれ配置し、消防団の機動力の整備充実を図った。
47.10　水槽付消防ポンプ自動車(イスズA-2級)1台を購入し消防署に配置した。
47.12　善通寺市消防本部救助隊(隊員13名)を発足した。
48. 1　消防署の消防自動車2台に超短波無線機移動局(10W)を装備した。
48. 3　優良消防団として消防庁長官から竿頭綬を授与された。
48. 4　消防職員を定数32名とした。
48. 8　小型動力ポンプ積載車2台を購入し、第2分団、第8分団にそれぞれ配置し、消防団の機動力の整備充実を図った。
48.11　消防本部庁舎を鉄筋コンクリート2階建延べ809㎡(消防屯所延べ86.625㎡併設)を善通寺町230番地の5に新築した。
49. 2　各分団に通信設備、サイレン制御装置を設置し消防署から指令することにより消防団出動の合理化を図った。
49. 8　日本消防協会から救急自動車(トヨタ2B型)1台が消防署に寄贈された。
50. 7　消防ポンプ自動車(ニッサン BD-Ⅰ型 A-2級)1台を購入し消防署に配置した。
51. 4　消防団員を定数320名とした。
53. 5　消防団に短波無線電話機(0.5W)を購入し配置した。
53. 7　小型動力ポンプ積載車(プリンス ホーマ)を購入し小型動力ポンプ(ラビットB-3級)及び救助資機(器)材を積載して消防署に配置した。
54. 5　小型動力ポンプ付積載車(ニッサンホーマ・ラビットB-3級)1台を購入し第8分団北に配置した。
54. 9　消防ポンプ自動車(トヨタBD-Ⅰ型A-2級)1台を購入し第1分団に配置した。
54. 9　日本消防協会から救急自動車(トヨタ2B型)1台が消防署に寄贈された。
54. 9　香川県消防操法大会に第5分団が出場し小型ポンプの部において最優秀賞を受賞した。
54.11　日本損害保険協会から消防ポンプ自動車(火災保険号 ニッサン BD-Ⅰ型A-1級)1台が消防署に寄贈された。
55. 3　優良消防団として消防庁長官から表彰旗を授与された。
55. 3　第7分団統合屯所木造平家建77.52㎡を改築した。
55. 3　本部分団屯所鉄筋コンクリート造平家建87.12㎡(公民館に併設)を改築した。
55. 8　小型動力ポンプ付積載車(マツダ ボンゴ)1台を購入し第7分団中村班に配置した。
56. 8　小型動力ポンプ付積載車(マツダ ボンゴ・ラビット B-3級)1台を購入し第4分団下吉田班に配置した。
56.12　小型動力ポンプ付積載車(マツダ ボンゴ・ラビット B-3級)1台を購入し第5分団西部班に配置した。
57. 3　第5分団屯所鉄筋コンクリート造平家建34㎡(市児童館に併設)を改築した。
57. 7　小型動力ポンプ(ラビット B-3級)1台を購入して第6分団原田班に配置した。
57. 7　小型動力ポンプ積載車(ニッサン アトラス)1台を購入して第3分団に配置した。
57. 9　香川県共済農業協同組合連合会から救急自動車(トヨタ 2B型)1台が消防署に寄贈された。

昭和

57. 9	香川県消防操法大会に第8分団が出場し小型ポンプの部において最優秀賞を受賞した。
58. 3	第3分団屯所木造平家建83.03㎡を改築した。
58. 4	消防職員を定数35名とした。
58.10	消防署の超短波無線機(基地局10W)を更新した。
58.12	日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車(ニッサン アトラス・ラビットB-2級)1台が寄贈され第2分団大麻班に配置した。
59. 3	第6分団屯所木造平家建114.52㎡を木徳町1017番地の1に新築した。
59. 8	日本消防協会から指令広報車(ニッサン ブルーバードバン)1台が消防署に寄贈された。
59. 9	消防本部の機構改革を行い課制をしき、総務、予防、警防の3課を設置し庶務係、消防団係、予防係、危険物係、指導係、消防防災係、機械係、の7係をおいた。
59.10	小型動力ポンプ積載車(ニッサン アトラス)1台を購入して第6分団木徳班に配置した。
60. 2	小型動力ポンプ(ラビットB-3級)1台を購入し第6分団木徳班に配置した。
60.10	消防ポンプ自動車(三菱 CD-I型 A-2級)1台を購入し本部分団に配置した。
60.11	日本防火協会から防火広報車(ニッサン キャラバン)1台が市婦人防火クラブに寄贈された。
61. 8	日本消防協会から救急自動車(ニッサン 2B型)1台が消防署に寄贈された。
61.11	小型動力ポンプ付積載車(ニッサン アトラス・ラビット B-3級)1台を購入し第6分団金蔵寺班に配置した。
62. 3	消防救急指令装置(I型)を購入して消防署に設置した。
62. 3	水槽付消防ポンプ自動車(三菱 Ⅱ型A-2級)1台を防衛施設庁補助事業で購入し消防署に配置した。
62. 3	消防本部(署)庁舎に鉄骨造2階建延べ220.39㎡を増築した。
62. 3	第2分団屯所鉄筋コンクリート造2階建延べ184.25㎡(善通寺公民館生野分館併設)を改築した。
62. 4	消防職員を定数43名とした。
62.12	小型動力ポンプ付積載車(トヨタ ハイエース・ラビット B-3級)1台を購入し第2分団生野班に配置した。
62.12	四国横断道の高松自動車道が供用開始され、下り線善通寺I.C～さぬき豊中I.C間の救急業務等を開始した。
62.12	第5分団中部屯所鉄骨造2階建延べ111.58㎡を改築した。
63. 4	消防団員(幹部)の定年(満65歳未満)を制定した。

平成

元. 2	地図検索装置を購入して消防署に配置した。
元. 3	第4分団屯所鉄筋コンクリート造2階建延べ160.80㎡を下吉田町541番地の3に新築した。
元. 3	小型動力ポンプ付積載車(トヨタ ハイエース・ラビット B-3級)1台を購入し第5分団中部班に配置した。
元. 8	日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車(トヨタ ハイエース・トーハツB－2級)1台が寄贈され第4分団稲木班に配置した。
元.12	はしご付消防自動車(日産 ディーゼル AZ30D型・森田ポンプ製スーパージャイロラダー30m級)1台を購入し消防署に配置した。
2. 2	香川県共済農業協同組合連合会から救急自動車(トヨタ 2B型)1台が消防署に寄贈された。
2. 2	小型動力ポンプ付積載車(トヨタ ハイエース・ラビット B-3級)1台を購入し第7分団弘田班に配置した。
2. 3	コミュニティ消防センター鉄骨造2階建延べ111.36㎡を与北町978番地の17(第5分団東部屯所)に新築した。
3. 1	消防ポンプ自動車(三菱 CD-I型 A-2級)1台を防衛施設庁補助事業で購入し消防署に配置した。
3. 1	小型動力ポンプ付積載車(トヨタ ハイエース・ラビット B-3級)1台を購入し第5分団東部班に配置した。

平成	
3. 3	コミュニティ消防センター鉄筋コンクリート造2階建延べ163㎡を吉原町363番地の11(第8分団屯所)に改築した。
3.10	消防団の団旗を更新した。
3.12	小型動力ポンプ付積載車(ニッサン アトラス・ラビット B-3級)1台を購入し第8分団北に配置した。
3.12	救助工作車(三菱Ⅱ型・救助資機材、照明灯、ウインチ、クレーン付)1台を購入し、消防署に配置した。
4. 3	コミュニティ消防センター鉄筋コンクリート造2階建延べ163㎡を原田町1424番地1(第6分団金蔵寺・原田班統合)に新築した。
4. 4	高松自動車道の善通寺I.C ～ 高松西I.Cの間が供用開始され、上り線善通寺I.C ～坂出I.C・坂出JCT間の救急業務等を開始した。
4.10	全国消防操法大会に第8分団が出場して、小型ポンプの部において敢闘賞を受賞した。
4.11	小型動力ポンプ積載車(トヨタ ハイエース)1台を購入し第6分団原田班に配置した。
5. 2	優良消防団として日本消防協会長から竿頭綬を授与された。
5. 3	消防ポンプ自動車(三菱 CD-I型 A-2級)1台を防衛施設庁補助事業で購入し消防署に配置した。
5. 3	コミュニティ消防センター鉄骨造2階建延べ108.24㎡を大麻町1170番地1(第2分団大麻班)に新築した。
7. 3	消防ポンプ自動車(三菱 CD-I型 A-2級)1台を防衛施設庁補助事業で購入し第1分団に配置した。
7. 5	救急救命士資格取得(1人目)
7. 8	日本消防協会から救急自動車(ニッサン 2B型)1台が消防署に寄贈された。
8. 5	救急救命士資格取得(2人目)
8.11	消防本部(署)庁舎に鉄骨造2階建棟に職員厚生室39.0㎡を増設した。
8.11	消防団の分団旗を更新した。
8.12	高規格救急自動車(イスズ スーパーメディック)1台及び高度救命処置用資機材一式を防衛施設庁補助事業で購入し消防署に配置した。
9. 2	高規格救急自動車の運用を開始した。
9. 4	香川県消防防災航空隊へ職員派遣(1人目 3年間)
9. 5	救急救命士資格取得(3人目)
9.10	30メートルはしご車の特別分解点検(オーバーホール1回目)を実施した。
10. 5	救急救命士資格取得(4人目)
10.11	携帯電話等からの119番通報受信システム(簡易型位置情報)の運用を開始した。
11. 2	耐震性貯水槽(100ｔ)を文京町三丁目942番6(片原町児童公園)に設置した。
11. 5	救急救命士資格取得(5人目)
11.12	消防指令広報車(ニッサン プリメーラ)1台を購入し消防署に配置した。
11.12	小型動力ポンプ付積載車(トヨタダイナ・ラビットB-3級)3台を購入し第5分団西部班、第7分団中村班、第8分団南班に配置した。
12. 2	消防署に超短波無線機(基地局10W・全国共通波用)を設置した。
12. 5	救急救命士資格取得(6人目)
12. 9	香川県消防操法大会に第7分団が出場し、小型ポンプの部において準優勝を収めた。
12.12	小型動力ポンプ付積載車(トヨタダイナ・ラビット B-3級)1台を購入し第4分団下吉田班に配置した。
13. 1	消防団員の定年を団員にあっては62歳に、団長及び副団長にあっては67歳に一部改正した。
13. 2	水槽付ポンプ自動車(イスズⅡ型A-2級)1台を購入して消防署に配置した。
13. 4	消防職員定数を41名とした。
13. 5	救急救命士資格取得(7人目)
13. 6	軽自動車(スバル・プレオ)1台購入し事務連絡車として消防本部に配置した。
13. 8	消防署車庫内に排気装置を整備した。

平成	
13.12	小型動力ポンプ付積載車(トヨタダイナ・ラビット B-3 級)1 台を購入し第 3 分団に配置した。
14. 2	電話交換機を更新した。
14. 3	消防本部庁舎外壁等を改修整備した。
14. 4	救急救命士資格取得(8 人目)
14. 5	テレフォンサービス回線を 5 回線増設し 10 回線とした。
14.11	週休二日制(試行)実施、隔日勤務者の 1 週間当りの勤務時間 40 時間 00 分とした。
14.12	高規格救急自動車(ニッサン　パラメディック 4WD)1 台及び高度救命処置用資機材一式を防衛施設庁補助事業で購入し消防署に配置した。
15. 2	消防資機材搬送車(ダイハツ　ハイゼット 4WD)1 台を購入し消防署に配置した。
15. 4	完全週休二日制に移行した。 香川県消防防災航空隊へ職員派遣(2 人目 3 年間) 救急救命士資格取得(9 人目)
16. 2	小型動力ポンプ付積載車(トヨタ　ダイナ・ラビット B-3 級)1 台を購入し第 2 分団大麻班に配置した。
16. 2	耐震性貯水槽(40ｔ)を弘田町 1439 番地 1 の地先に設置した。
16. 4	消防職員定数を 40 名とした。
16. 9	第 1 水防倉庫(与北町)老朽化により撤去した。
16.12	小型動力ポンプ付積載車(トヨタ　ダイナ・ラビット B-3 級)1 台を購入し第 6 分団木徳班に配置した。
17. 5	救急救命士資格取得(10 人目)
17.10	気管挿管認定救命士による気管挿管応急処置開始。
17.11	携帯電話等の 119 番通報受信を分散方式から直接受信方式に切替えた。
17.12	消防ポンプ自動車(日野　CD-Ⅰ型　A-2 級)1 台を防衛施設庁補助事業で購入し消防署に配置した。
18. 3	通信指令室の直流電源装置を更新した。
18. 4	消防団員を定数 360 名とし、うち 17 名は女性消防団員とした。 消防本部の機構改革を行い 3 課を総務、予防の 2 課にした。
18. 5	救急救命士資格取得(11 人目) 薬剤投与認定救命士による薬剤投与応急処置開始。
19. 1	30 メートルはしご車の特別分解点検(オーバーホール 2 回目)を実施した。
19. 4	消防職員定数を 39 名とした。 救急救命士資格取得(12 人目)
20. 2	小型動力ポンプ(C-1 級)1 台を購入し、消防署に配置した。 第 3 分団屯所が県道拡幅改修工事の為、上郷西部多目的共同利用集会場(善通寺町 4185-2 164.71 ㎡ 平成 6 年 6 月建設)の寄付建物に車庫等(32.76 ㎡)を増築し第 3 分団屯所とした。
20. 3	消防車庫内に高圧空気充填機(松原 AK13BPX)を設置した。
20. 4	消防職員定数を 37 名とした。 救急救命士資格取得(13 人目)
20.12	小型動力ポンプ付積載車(トヨタ　ダイナ・ラビット B-3 級)1 台を購入し第 6 分団金蔵寺班に配置した。
21. 4	消防本部の機構改革を行い危機管理室を設置し危機管理係をおいた。 条例改正により消防長の階級を消防司令長とした。 香川県消防防災航空隊へ職員派遣(3 人目 3 年間) 救急救命士資格取得(14 人目)
21.10	第 19 回全国女性消防操法大会に女性消防団員が出場し、12 位「優良賞」に入賞した。
22. 1	消防庁より消防団救助資機材一式が消防団に無償貸付された。
22. 2	日本消防協会から指揮広報車(三菱　ギャランフォルティス)が善通寺市消防団に寄贈された。
22. 3	防災活動車(ダイハツハイゼットカーゴ)を購入し、消防団本部に配置した。
22. 3	小型動力ポンプ付積載車(トヨタ　ダイナ・ラビット B-3 級)を購入し第 5 分団中部班に配置した。

平成	
22. 3	高規格救急自動車(トヨタ　ハイメディック 4WD)1 台及び高度救命処置用資器材一式を防衛局補助事業で購入し消防署に配置した。
22. 3	消防庁より消防団救助資機材搭載型車両(イスズ　エルフ・シバウラ B-2 級ポンプ)1 台が無償貸付され第 2 分団生野班に配置した。
22. 4	救急救命士資格取得(15・16 人目)
22. 4	消防団員の定年を団員にあっては 65 歳に、分団長・副分団長・部長・班長にあっては 67 歳に、団長及び副団長にあっては 70 歳に改正した。
22.12	消防ポンプ自動車(トヨタ・CD-Ⅰ型)を購入し本部分団に配置した。
23. 3	東日本大震災のため緊急消防援助隊香川県隊として本市から 2 名を宮城県気仙沼市へ派遣した。(14 日～21 日)
23. 4	第 7 分団消防屯所及び防災備蓄倉庫の用地(1,035 ㎡・中村町 1480-1)を購入した。
23.10	小型動力ポンプ付積載車(トヨタ　ダイナ・ラビット B-3 級)を購入し第 4 分団稲木班に配置した。
24. 3	防災備蓄倉庫(鉄骨造平屋建て 86.4 ㎡)を中村町 1480-1 に建設した。
24. 4	救急救命士資格取得(17 人目)
24. 4	消防本部の機構改革を行い総務課と予防課及び危機管理室を統合し消防総務課とした。
24. 6	消防団安全対策設備整備補助事業により、水難救助資機材を購入し各分団に配備した。
24.11	消防庁より消防防災通信基盤整備費補助事業で全国瞬時警報システム(J－ALART)を消防本部に設置した。
25. 3	日本消防協会より消防団多機能型車両(イスズ　エルフ・トーハツ VF63AS)1 台寄贈され第 8 分団北班に配置した。
25. 3	消防救急デジタル無線設備(統制波・活動波)を丸亀市・善通寺市・多度津町共同で整備が完了し運用開始した。
25. 3	車載無線(デュアル方式)、携帯無線(10 台)もデジタル無線機に整備完了し運用開始した。
25. 3	一般社団法人　日本自動車工業会より救急自動車 1 台が寄贈され高規格救急自動車への艤装及び、高度救命処置用資機材を装備し消防署に配置した。(高規格救急自動車 3 台となる)
25. 4	救急救命士資格取得(18・19 人目)
25. 9	四国こどもとおとなの医療センター派遣型救急ワークステーション事業を運用開始した。
25.12	第 7 分団屯所(鉄骨造 2 階建延べ 220.64 ㎡)を中村町 1480 番地 1 に新築した。
26. 2	まちづくり交付金事業で南大門前にぎわい広場に耐震性貯水槽(100 ㎥型)を設置した。
26. 4	救急救命士資格取得(20 人目)
26. 5	丸亀市・善通寺市・多度津町消防通信指令事務協議会を設置後、施設名称を中讃消防指令センターとし共同運用を開始した。
27. 3	消防防災施設整備費補助金で西中学校に耐震性貯水槽(100 ㎥型)を設置した。
27. 4	香川県消防防災航空隊へ職員派遣(4 人目.3 年間) 消防本部の機構改革を行い消防総務課を消防総務課と予防課とした。
27. 9	消防本部庁舎、鉄筋コンクリート造 5 階建延べ 2972.85 ㎡(第一分団消防屯所併設)と訓練棟鉄骨造 4 階建延べ 144 ㎡を文京町四丁目 1 番 3 号に新築し 11 月より運用を開始した。
28. 1	認定救命士による処置拡大(心肺停止前静脈路確保と・血糖測定)
28. 2	小型動力ポンプ付積載車(トヨタ　トヨエース・シバウラ B-3 級)を購入し、第 7 分団弘田班に配置した。
28. 3	公益財団法人日本消防協会より特別表彰「まとい」を受章した。
28. 3	消防防災施設整備費補助金で東部小学校に耐震性貯水槽(100 ㎥型)を設置した。
28. 4	熊本地震のため緊急消防援助隊香川県隊として本市から 4 名を熊本県熊本市へ派遣した。(16 日～21 日)

平成	
28. 9	香川県消防操法大会小型ポンプの部で第5分団が優勝した。
28.11	緊急防災・減災事業債を活用し救助工作車(Ⅱ型)を消防署に配備した。
29. 3	消防防災施設整備費補助金で吉原小学校に耐震性貯水槽(100㎥型)を設置した。
29. 3	旧消防庁舎の除却工事が完了した。
29. 3	救急救命士資格取得(21人目)
29. 4	消防職員定数を40名とした。
29. 7	第2・第3水防倉庫を撤去し水防資機材を備蓄倉庫に集約した。
29. 8	指導救命士資格取得(1人目)
29. 9	香川県消防操法大会小型ポンプの部で第6分団が準優勝した。
29.12	防衛省民生安定施設整備事業を活用し消防ポンプ自動車(モリタ　CD-Ⅰ型A-2級)を消防署に配置した。
29.12	公益財団法人　日本消防協会より消防団広報車両(日産NV200)を寄贈された。
30. 2	消防団を中核とした地域防災力の充実強化として全消防団員に新基準活動服を貸与した。
30. 4	救急救命士資格取得(22.23人目)
30. 4	消防職員定数を41名とした。
30. 7	西日本豪雨被害のため緊急消防援助隊香川県隊として本市から16名を広島県へ派遣した。(12日～25日)
30. 9	緊急防災・減災事業債を活用し屈折はしご付消防ポンプ自動車(日野　25m級、モリタA-2級)を消防署に配置した。
30.12	小型動力ポンプ付積載車(トヨタ　ダイナ・シバウラB-3級)2台を緊急防災・減災事業債の補助を受け第5分団東部班、第6分団原田班に配置した。
31. 3	消防庁より救助資機材搭載型消防ポンプ自動車(イスズ　エルフ、モリタA-2級)1台が無償貸付され第1分団に配置した。
31. 3	緊急防災・減災事業債を活用し筆岡幼稚園に耐震性貯水槽(100㎥型)を設置した。
31. 3	中讃消防指令センターの指令台システムを改修整備した。
31. 3	各屯所に設置していた火の見櫓10基の除去が完了した。
31. 4	救急救命士資格取得(24.25.26人目)
令和	
元. 8	指導救命士資格取得(2人目)
元. 9	火災原因調査車を購入し消防署に配置した。
元. 9	高規格救急自動車(トヨタ　ハイメディック4WD)1台及び高度救命処置用資器材一式を緊急防災・減災事業債を活用し消防署に配置した。
元. 9	香川県地域防災力重点分野支援事業補助金を活用し各分団の防火衣を更新整備した。
2. 3	緊急防災・減災事業債を活用し与北小学校に耐震性貯水槽(100㎥型)を設置した。
2. 4	救急救命士資格取得(27人目)
2.12	緊急防災・減災事業債を活用し水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型(日野、モリタA-2級)を消防署に配置した。
3. 2	緊急防災・減災事業債を活用し西部幼稚園に耐震性貯水槽(100㎥型)を設置した。
3. 3	防災対策事業債を活用し本部分団屯所(鉄筋コンクリート造平屋建125.06㎡)を上吉田町三丁目6番14号に新築した。
3. 8	地域防災組織育成助成事業を活用し消防団員用の雨合羽(220着)を整備した。
3. 8	「災害に強い香川づくり」集中対策推進事業補助金を活用し水害対策用ボート4艇(アキレスワークボートNC－330　1艇、アキレスワークボートZE4－942　3艇)を消防署に配置した。
3.12	緊急防災・減災事業債を活用し小型動力ポンプ付積載車(トヨタ　ダイナ・シバウラC-1級)2台を第5分団西部班、第8分団南班に配置した。
4. 3	緊急防災・減災事業債を活用し南部小学校に耐震性貯水槽(100㎥型)を設置した。

令和

4．4　機能別消防団員(30名)を導入した。
4．7　「災害に強い香川づくり」集中対策推進事業補助金を活用し消防団用エンジンカッター(17台)を整備した。
4．7　緊急防災・減災事業債を活用し市役所に耐震性貯水槽(40㎥型)を設置した。
4．9　香川県消防操法大会小型ポンプの部で第2分団が優勝した。
4.12　緊急防災・減災事業債を活用し小型動力ポンプ付積載車(トヨタ　ダイナ・シバウラC-1級)1台を第7分団中村班に配置した。
5．2　緊急防災・減災事業債を活用し竜川小学校に耐震性貯水槽(100㎥型)を設置した。
5．3　指揮支援車(トヨタ　ハイエース)を消防署に配置した。

2. 市予算と消防予算

（単位　千円）

年度別	一般会計予算（当初）	消防予算（当初）	比率％	前年度消防予算との増減	
				増減額	比率％
30	12,950,000	473,891	3.7	13,156	2.9
31	15,130,000	485,048	3.2	11,157	2.4
2	13,880,000	562,156	4.1	77,108	15.9
3	16,165,000	464,686	2.9	△97,470	△17.3
4	14,597,000	449,388	3.1	△15,298	△3.3

3. 消防予算と決算

（単位　千円）

年度別	予算額（最終）	決算額	執行率％	消防費にかかる基準財政需要額
30	620,791	597,799	96.3	478,114
31	481,776	465,887	96.7	478,114
2	551,162	531,369	96.4	482,345
3	458,257	437,116	95.4	482,028
4	464,778	448,345	96.5	476,526

※平成 30 年度　137,775 繰越明許費（屈折はしご車購入事業）

4. 人口世帯数に対する消防費（決算）

（単位　千円）

年度別	消防費	
	市民一人当たり	1 世帯当たり
30	18,619	45,606
31	14,702	35,643
2	16,993	35,600
3	14,237	29,519
4	14,733	30,179

5. 消防相互応援協定等の締結状況

中讃地区広域市町村圏消防相互応援協定
丸亀市・多度津町・琴平町・まんのう町
仲多度南部消防組合消防本部・善通寺市
昭和４９年　６月　１日 締結

香川県消防相互応援協定
香川県８市９町４消防組合
昭和６１年１２月　１日 締結

香川県消防相互応援協定に基づく高速自動車道等に関する覚書
三観広域行政組合消防本部・善通寺市消防本部
昭和６２年１２月　１日 締結

高松・松山自動車道(善通寺～土居)における火災及び救急業務に関する覚書
三観広域行政組合消防本部・四国中央市消防本部
西日本高速道路高松建設局・善通寺市消防本部
昭和６２年１２月１６日 締結

香川県防災ヘリコプター応援協定
香川県８市９町４消防組合
平成　６年　４月　１日 締結

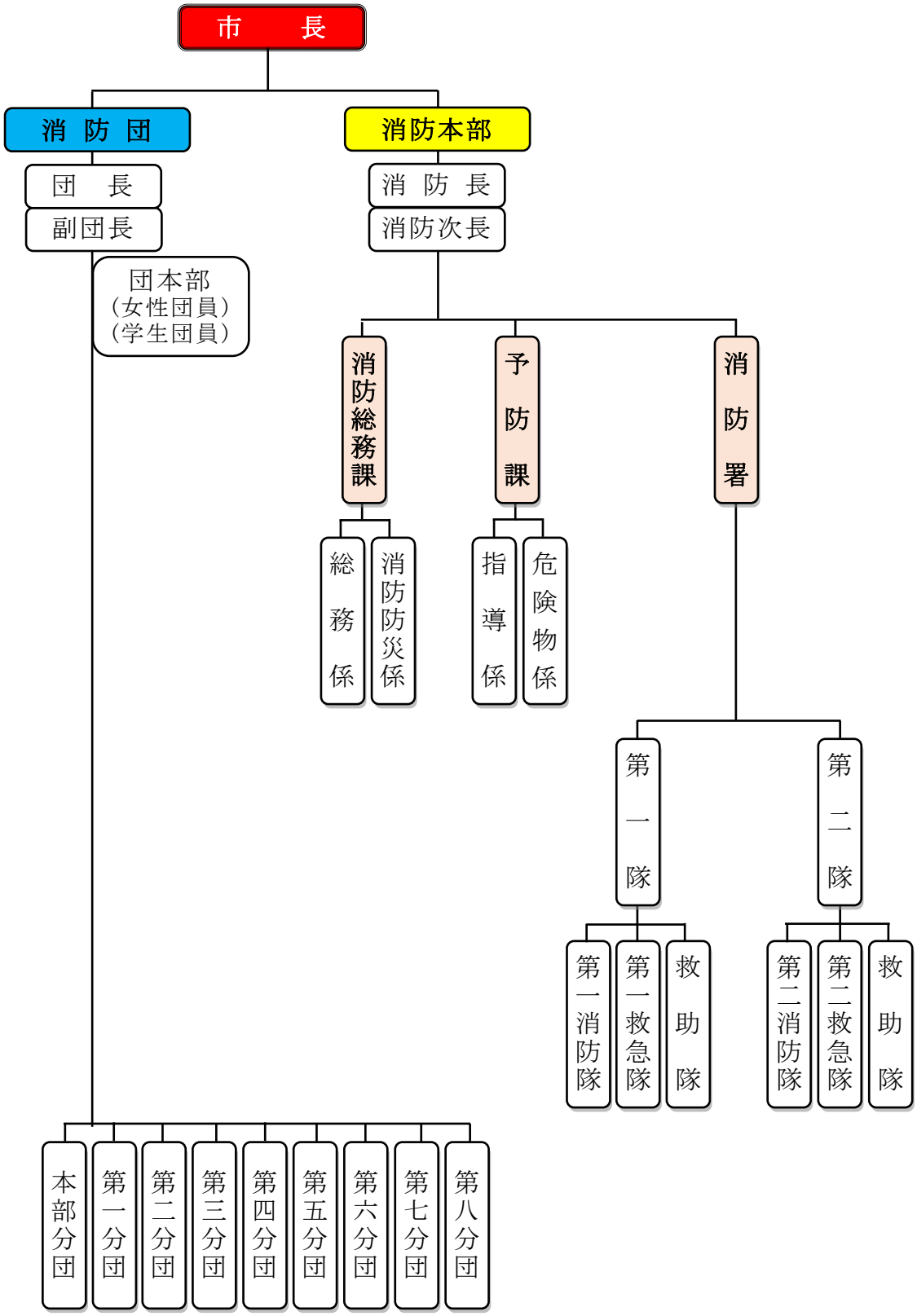
高松自動車道高瀬ＰＡ内場外離着陸場運用に関する確認書
香川県・三観広域行政組合消防本部
西日本高速道路四国支社・善通寺市消防本部
平成１４年　９月３０日 締結

香川県消防相互応援協定に基づく高速自動車道等に関する覚書
高松市消防局・坂出市消防本部・丸亀市消防本部
三観広域行政組合消防本部・大川広域消防本部・善通寺市消防本部
平成１５年　３月３０日 締結

高松自動車道（徳島県境～愛媛県境）における救急業務・火災消火業務等に関する覚書
高松市消防局・坂出市消防本部・丸亀市消防本部
三観広域行政組合消防本部・大川広域消防本部
西日本高速道路四国支社・善通寺市消防本部
平成１５年　３月３０日 締結

中讃地区広域市町村圏消防相互応援協定書の運用に係る申し合わせ書
丸亀市消防本部・多度津町消防本部・善通寺市消防本部
令和　元年１０月３１日 締結

6. 消防組織図


市　長
消 防 団
消防本部
団　長
副団長
消 防 長
消防次長
団本部
（女性団員）
（学生団員）
消防総務課
予防課
消防署
総務係
消防防災係
指導係
危険物係
第一隊
第二隊
第一消防隊
第一救急隊
救助隊
第二消防隊
第二救急隊
救助隊
本部分団
第一分団
第二分団
第三分団
第四分団
第五分団
第六分団
第七分団
第八分団

7. 消防機関配置図

N
第6分団
第7分団
第4分団
第8分団
第1分団
本部分団
第5分団
第3分団
第2分団
凡 例
消防本部
分団機械器具
JR
国道
高速

8. 消防の事務分掌

［１］ 消防本部の事務分掌

○消防総務課

総務係

(1)所管行政の総合企画調整に関すること。
(2)人事及び組織に関すること。
(3)職員の服務及び教養に関すること。
(4)職員の規律及び監査に関すること。
(5)職員の福利厚生に関すること。
(6)予算及び会計経理に関すること。
(7)条例及び規則等例規に関すること。
(8)儀式及び消防表彰に関すること。
(9)文書の発送、収受及び管理に関すること。
(10)消防財産の取得、処分及び管理に関すること。
(11)消防施設の強化促進に関すること。
(12)物品の調達、管理に関すること。
(13)公印の保管に関すること。
(14)消防統計に関すること。
(15)課の庶務に関すること。
(16)消防団員の任免、服務、表彰その他身分に関すること。
(17)消防団員の報酬等の支給に関すること。
(18)消防団員の被服等の貸与に関すること。
(19)消防団員及び消防作業従事者等の災害補償に関すること。
(20)その他消防団に関すること。
(21)他係の所管に属さないこと。

消防防災係

(1)警防計画に関すること。
(2)水火災等の警戒防ぎょに関すること。
(3)災害対策の調査研究に関すること。
(4)消防業務の計画及び調査研究に関すること。
(5)消防に係る技術、装備の研究及び指導に関すること。
(6)消防地水利に関すること。
(7)消防団の訓練に関すること。
(8)機械設備、器具の点検整備及び保全に関すること。
(9)安全運転の管理及び育成に関すること。
(10)消防相互応援及び緊急消防援助隊に関すること。
(11)救急救助業務の計画及び調査研究に関すること。
(12)救急救助に係る技術、装備の研究及び指導に関すること。
(13)医療機関との連絡調整に関すること。

(14)救急救助資器材の配備、保全に関すること。
(15)応急手当普及等の講習に関すること。
(16)消防通信指令等に関すること。
(17)気象情報及び火災警報に関すること。
(18)消防通信機器の整備保全に関すること。
(19)通信技術の訓練指導に関すること。
(20)気象の状況その他危機事象発生の有無に関する事項の常態的な把握に関すること。
(21)危機事象発生下における情報の収集、分析及び提供に関すること。
(22)その他消防通信及び危機事象への対応について必要な事項に関すること。

○予防課

危険物係

(1)広報広聴及び火災統計に関すること。
(2)火災の原因及び損害の調査に関すること。
(3)危険物安全協会等自主防災組織及び防火管理者の指導並びに育成に関すること。
(4)諸証明に関すること。
(5)危険物製造所等の許可及び検査に関すること。
(6)危険物製造所等の指導取締りに関すること。
(7)液化石油ガス、圧縮アセチレンガス等の指導に関すること。
(8)その他危険物関係の指導に関すること。
(9)課の庶務に関すること。

指導係

(1)建設許可等の同意事務に関すること。
(2)消防用設備等の設置指導及び検査に関すること。
(3)火気使用設備等の設置指導に関すること。
(4)予防査察及び違反処理に関すること。
(5)表示公表対象物の調査指導に関すること。
(6)消防設備士の指導に関すること。
(7)その他建築物関係の指導に関すること。

［２］消防署の事務分掌

○消防署

第１消防隊・第２消防隊

(1)水火災等の災害の警戒防ぎょに関すること。
(2)消防水利の点検及び保全に関すること。

(3)消防訓練に関すること。
(4)道路占有に関すること。
(5)隊員の勤務配置に関すること。
(6)署の庶務に関すること。

第１救急隊・第２救急隊

(1)救急業務の実施に関すること。
(2)救急機械器具の点検及び保全に関すること。
(3)隊員の勤務配置に関すること。

救　助　隊

(1)救助業務の実施に関すること。
(2)救助機械器具及び資材の点検並びに保全に関すること。
(3)救助技術の研究及び訓練に関すること。

9. 消防職員配置状況

（令和5年3月31日）

区分			階級別	合計	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
合計				41 (53)	1	4 (1)	13 (13)	10 (14)	6 (12)	7 (13)
消防本部	小計			40 (1)	1	3 (1)	13	10	6	7
消防本部	消防長			1	1					
消防本部	消防次長			1		1				
消防本部	消防総務課		課長・主幹・課長補佐・副主幹	1 (1)		(1)	1			
消防本部	消防総務課		総務係	9			1	4	1	3
消防本部	消防総務課		消防防災係	5			1	2		2
消防本部	予防課		課長・主幹・課長補佐・副主幹	6		1	5			
消防本部	予防課		指導係	9			2	3	3	1
消防本部	予防課		危険物係	5			2		2	1
消防本部	中讃消防指令センター（出向）			2		1	1			
消防本部	防災航空隊（出向）			1				1		
消防署	小計			1 (52)		1	(13)	(14)	(12)	(13)
消防署	署長・副署長			1 (2)		1	(2)			
消防署	消防隊	第一	隊長・副隊長	(3)			(2)	(1)		
消防署	消防隊	第一	隊員	(6)				(1)	(2)	(3)
消防署	消防隊	第二	隊長・副隊長	(3)			(3)			
消防署	消防隊	第二	隊員	(5)				(1)	(3)	(1)
消防署	救急隊	第一	隊長・副隊長	(2)			(1)	(1)		
消防署	救急隊	第一	隊員	(3)				(1)	(1)	(1)
消防署	救急隊	第二	隊長・副隊長	(3)			(2)	(1)		
消防署	救急隊	第二	隊員	(3)				(1)		(2)
消防署	救助隊		隊長・副隊長	(6)			(3)	(3)		
消防署	救助隊		隊員	(16)				(4)	(6)	(6)

（ ）内は、兼務

10. 歴代消防長

（令和5年3月31日）

歴　　代	氏　　名	在　　任　　期　　間	摘　　要
初　　代	三　好　　泰　三	自　昭和 31 年　4月　1日 至　昭和 36 年　9月 30日	市　　長 （消防長事務取扱）
二　　代	奥　村　　武　雄	自　昭和 36 年 10月　1日 至　昭和 40 年　3月 31日	専　　任
三　　代	森　村　　龍　彦	自　昭和 40 年　4月　1日 至　昭和 41 年　5月　9日	市　　長 （消防長事務取扱）
四　　代	奥　村　　武　雄	自　昭和 41 年　8月　1日 至　昭和 42 年　3月 31日	専　　任
五　　代	田　辺　　寿　一	自　昭和 42 年　4月　1日 至　昭和 43 年　9月 30日	〃
六　　代	細　谷　　正　幸	自　昭和 43 年 10月　1日 至　昭和 45 年 11月　5日	〃
七　　代	山　根　　等　男	自　昭和 45 年 11月 06日 至　昭和 53 年　6月 30日	〃
八　　代	米　沢　　將	自　昭和 53 年　7月　1日 至　昭和 57 年　9月 30日	〃
九　　代	谷　畑　　勝	自　昭和 57 年 10月　1日 至　昭和 60 年　7月 31日	〃
十　　代	米　沢　　將	自　昭和 60 年　8月　1日 至　昭和 62 年　4月 30日	〃
十　一　代	安　藤　　政　信	自　昭和 62 年　5月　1日 至　平成　3 年 12月 31日	〃
十　二　代	増　田　　義　幸	自　平成　4 年　1月　1日 至　平成　5 年 11月 30日	〃
十　三　代	宮　川　　正　弘	自　平成　5 年 12月　1日 至　平成　9 年　9月 30日	〃
十　四　代	平　尾　　信　彰	自　平成　9 年 10月　1日 至　平成 12 年 12月 31日	〃
十　五　代	宮　下　　裕	自　平成 13 年　1月　1日 至　平成 13 年　6月 30日	市　　長 （消防長事務取扱）
十　六　代	岸　田　　稔	自　平成 13 年　7月　1日 至　平成 18 年　3月 31日	専　　任
十　七　代	田　川　　正　二	自　平成 18 年　4月　1日 至　平成 19 年　3月 31日	〃
十　八　代	臼　杵　　孝　夫	自　平成 19 年　4月　1日 至　平成 20 年　3月 31日	〃
十　九　代	澁　谷　　清　美	自　平成 20 年　4月　1日 至　平成 21 年　3月 31日	〃
二　十　代	山　﨑　　学	自　平成 21 年　4月　1日 至　平成 24 年　3月 31日	〃
二十一代	山　口　　剛	自　平成 24 年　4月　1日 至　平成 25 年　3月 31日	〃
二十二代	渡　辺　　公　照	自　平成 25 年　4月　1日 至　平成 29 年　3月 31日	〃
二十三代	香　川　　英　幸	自　平成 29 年　4月　1日 至　令和　2 年　3月 31日	〃
二十四代	杉　本　　豊　和	自　令和　2 年　4月　1日 至　令和　5 年　3月 31日	〃

11. 歴代消防署長

（令和5年3月31日）

歴　　代	氏　　名	在　任　期　間	摘　　要
初　　代	奥村　武雄	自　昭和41年　8月　1日 至　昭和42年　3月31日	兼　　務
二　　代	田辺　寿一	自　昭和42年　4月　1日 至　昭和43年　9月30日	〃
三　　代	細谷　正幸	自　昭和43年10月　1日 至　昭和45年11月　5日	〃
四　　代	山根　筈男	自　昭和45年11月　6日 至　昭和53年　6月30日	〃
五　　代	安藤　政信	自　昭和57年10月01日 至　昭和62年　7月31日	兼　　務 (昭和59年9月1日迄)
六　　代	坂本　俊信	自　昭和62年　8月　1日 至　平成　3年　6月30日	兼　　務
七　　代	安藤　政信	自　平成　3年　7月　1日 至　平成　3年12月31日	〃
八　　代	多田　喜久男	自　平成　4年　1月　1日 至　平成　5年10月31日	〃
九　　代	増田　義幸	自　平成　5年11月　1日 至　平成　5年11月30日	〃
十　　代	長谷部　一成	自　平成　5年12月　1日 至　平成　9年　9月30日	兼　　務 (平成7年5月31日迄)
十一代	平尾　信彰	自　平成　9年10月　1日 至　平成12年12月31日	兼　　務
十二代	岸田　　稔	自　平成13年　1月　1日 至　平成17年　3月31日	〃
十三代	田川　正二	自　平成17年　4月　1日 至　平成18年　3月31日	〃
十四代	澁谷　清美	自　平成18年　4月　1日 至　平成21年　3月31日	〃
十五代	山﨑　　学	自　平成21年　4月　1日 至　平成24年　3月31日	〃
十六代	原村　隆文	自　平成24年　4月　1日 至　平成24年12月31日	〃
十七代	宮崎　俊之	自　平成25年　1月　1日 至　平成26年　3月31日	専　　任
十八代	鈴木　徹哉	自　平成26年　4月　1日 至　平成29年　3月31日	〃
十九代	池下　　聡	自　平成29年　4月　1日 至　令和　2年　3月31日	〃
二十代	佐藤　啓司	自　令和　2年　4月　1日 至　令和　3年　6月30日	兼　　務
二十一代	杉本　豊和	自　令和　3年　7月　1日 至　令和　4年　6月30日	〃
二十二代	谷内　昌広	自　令和　4年　7月　1日 至　令和　5年03月31日	専　　任

12. 消防職員任用及び退職状況

（令和5年3月31日）

区分 ＼ 年度別		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
任命	市役所吏員						
	新規採用	2	2	2	2	2	1
	事務職員						
退職		1	2	2	1	1	1
出向		1				1	1
現在員累計		39	40	40	41	41	41
昇任（任命）	消防監						
	消防司令長	1			1		
	消防司令						1
	消防司令補				2	2	2
	消防士長	1	3				4
	消防副士長	2	3	1		2	2
	消防士	2	2	2	2	2	1
合計		6	8	3	5	6	10

13. 消防職員勤続年数状況

（令和5年3月31日）

年数 ＼ 階級別	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計
合計	1	4	13	10	6	7	41
5年未満					2	7	9
5年以上 ～ 10年未満				4	4		8
10年以上 ～ 15年未満			1	5			6
15年以上 ～ 20年未満			6	1			7
20年以上 ～ 25年未満			2				2
25年以上 ～ 30年未満		1	2				3
30年以上 ～ 35年未満			2				2
35年以上	1	3					4

14. 消防吏員特殊技能資格取得状況

（令和5年3月31日）

免許種別 ＼ 階級別		合計	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
		41	1	4	13	10	6	7
自動車運転免許	大型自動車2種							
	大型自動車1種	32	1	4	13	10	4	
	中型自動車1種	32	1	4	13	10	4	
	準中型自動車1種	41	1	4	13	10	6	7
	普通自動車1種	11	1		6	4		
	自動二輪車							
その他の免許及び資格	危険物取扱甲							
	危険物取扱乙	29	1	1	9	8	6	4
	特殊無線技師乙2級	19		4	11	3	1	
	特殊無線技師乙3級	3						3
	予防技術資格者	15	1		8	1	5	
	小型船舶操縦士	5		1	3	1		
	潜水士	22	1	2	7	9	3	
	移動式クレーン	29	1	4	13	10	1	
	玉掛	26		4	11	10	1	
	ガス溶接	7	1	2	1	2	1	
	第2種酸欠作業主任者	25	1	3	13	7	1	
	応急手当指導員	35	1	4	13	8	5	4
	救急救命士	23		3	10	6	1	3
	指導救命士	2			2			

15. 消防職員初任給

（令和5年3月31日）

区分		級及び号給	金額
初任給	大学卒	1 級 33 号給	198,500 円
	短大卒	1 級 23 号給	180,300 円
	高校卒	1 級 13 号給	164,100 円

16. 消防職員諸手当支給状況

（令和5年3月31日）

区分	支給単位	金額	摘要
夜勤手当	1勤務	時間給×25／100×3. 5時間	隔日勤務者
夜間特殊業務手当	〃	290 円	2時間未満
〃	〃	360 円	2時間以上 5時間未満
〃	〃	550 円	5時間以上
出動手当	1 回	280 円	水・火災等 当務
〃	〃	420 円	〃 非番
〃	〃	210 円	救急 当務
〃	〃	320 円	〃 非番
救急救命士特定行為手当	1件	700円	
休日勤務手当	1勤務	時間給×135／100×11時間	
〃	〃	時間給×135／100×4.5時間	
感染症防疫業務手当	1件	1，000円	新型コロナウイルス感染症特例（3,000円、4,000円/当務）

17. 消防吏員研修状況

（令和5年3月31日）

区分		年度別	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
合計			20	16	9	17	14
消防大学校	総合	幹部科		1			
		上級幹部科					
		新任消防長科					
	専科	警防科					
		救助科					
		火災調査科					
香川県消防学校	初任教育		2	2	2	2	1
	専科	救助科	2	1	1	1	2
		救急科	1		1	2	1
		警防科	1		1		1
		危険物科		1		1	
		火災調査科	1		1		1
		査察科		2		1	
		予防科					
		特殊災害科	1	2	1	1	1
	幹部教育	初級幹部			1		
		中級幹部	1			1	
		上級幹部		1			1
	特別教育	小型移動式クレーン	2			1	1
		巻上げ機特別教育講習	2			1	1
		機関員運転講習	2	2		1	2
		応急手当指導員	2	1	1	2	1
		水難救助講習	2	2		1	1
		救急救命士追加講習					
		通信指令講習				1	
研修所		救急救命士	1	1		1	
		指導救命士		1			1

18. 消防団員階級別人員

令和5年3月31日

区 分	合 計	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員
定員	390	1	2	9	9	21	61	287
実員	375	1	2	9	9	21	61	272

19. 歴代消防団長

令和5年3月31日

歴 代	氏 名	在 任 期 間	備 考
初 代	山 田 宗五郎	自 昭和30年 1月 8日 至 昭和32年10月 7日	市制施行 昭和29. 3. 31
二 代	平 石 光 久	自 昭和32年10月 8日 至 昭和36年 3月31日	
三 代	乾 英 信	自 昭和36年 4月 1日 至 昭和56年 3月31日	
四 代	松 本 弘	自 昭和56年 4月 1日 至 平成 元年 3月31日	
五 代	山 下 三 郎	自 平成 元年 4月 1日 至 平成 3年 3月31日	
六 代	竹 森 正 治	自 平成 3年 4月 1日 至 平成 7年 3月31日	
七 代	香 川 正 雄	自 平成 7年 4月 1日 至 平成 9年 3月31日	
八 代	土 居 義 正	自 平成 9年 4月 1日 至 平成13年 3月31日	
九 代	市 﨑 恒 昭	自 平成13年 4月 1日 至 平成19年 3月31日	
十 代	宮 武 利 幸	自 平成19年 4月 1日 至 令和 2年 3月31日	
十一代	佐 柳 健	自 令和 2年 4月 1日 至 令和 5年 3月31日	

20. 消防団員編成表

令和5年3月31日

区 分	定 員	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	合 計
団 本 部	50	1	2			1	2	44	50
本 部 分 団	30			1	1	2	5	16	25
第 1 分 団	30			1	1	2	5	21	30
第 2 分 団	36			1	1	2	6	26	36
第 3 分 団	30			1	1	2	5	21	30
第 4 分 団	36			1	1	2	6	25	35
第 5 分 団	53			1	1	3	10	29	44
第 6 分 団	53			1	1	3	10	38	53
第 7 分 団	36			1	1	2	6	26	36
第 8 分 団	36			1	1	2	6	26	36
合 計	390	1	2	9	9	21	61	272	375

21. 消防団員勤続年数状況

令和5年3月31日

階級別 / 勤続年数	団　長	副団長	分団長	副分団長	部　長	班　長	団　員	合　計
平　　均	41.0	34.0	29.2	28.3	24.8	19.2	8.1	12.0
１　年　未　満							41	41
１　～　３							22	22
３　～　５							22	22
５　～　１０						4	62	66
１０　～　１５						4	50	54
１５　～　２０					3	17	50	70
２０　～　２５				2		16	14	32
２５　～　３０			1	1	11	14	6	33
３０　～　３５		1	7	4	5	3	4	24
３５　～　４０		1	1	2	2	3	1	10
４０年以上	1							1
合　　計	1	2	9	9	21	61	272	375

22. 消防団員年齢状況

令和5年3月31日

階級別 / 年齢	団　長	副団長	分団長	副分団長	部　長	班　長	団　員	合　計
平　　均	70.0	65.5	59.8	59.9	57.9	54.9	39.7	44.4
２０歳未満								0
２０　～　２５							26	26
２５　～　３０							17	17
３０　～　３５							18	18
３５　～　４０							38	38
４０　～　４５						2	47	49
４５　～　５０					3	15	50	68
５０　～　５５			1	2	2	13	45	63
５５　～　６０			4	1	7	16	21	49
６０歳以上	1	2	4	6	9	15	10	47
合　　計	1	2	9	9	21	61	272	375

23. 消防団員任用及び退職状況

令和5年3月31日

区　　分	新　　任（令和4年度中）	退　　職		摘要
		令和5年3月31日	年　度　途　中	
団　　長		1		令和5年3月31日現在 実員375名
副　団　長				
分　団　長		1		
副 分 団 長		2		
部　　長				
班　　長		1		
団　　員	41	24	1	
合　　計	41	29	1	

[1] 階級別退職状況

令和5年3月31日

階級別 / 勤続年数	団　長	副団長	分団長	副分団長	部　長	班　長	団　員	合　計
3 年 未 満							21	21
3　～　5								0
5　～１０							1	1
１０～１５							1	1
１５～２０								0
２０～２５						1		1
２５～３０							1	1
３０年以上	1		1	2			1	5
合　　計	1	0	1	2	0	1	25	30

［2］年度別退職状況

勤続年数＼年度別	30	31	2	3	4	合　計
３　年　未　満		1	1		21	23
３　～　５		2				2
５　～　１０			2		1	3
１０　～　１５	3	2	3	1	1	10
１５　～　２０	2	1	1	2		6
２０　～　２５	2	4	2		1	9
２５　～　３０	2	1		1	1	5
３０　年　以　上	5	6	2	5	5	23
合　　計	14	17	11	9	30	81

24. 消防団員退職報償金支給状況

［1］階級別支給状況

（単位　千円）

勤続年数＼階級別		団　長	副団長	分団長	副分団長	部　長	班　長	団　員	合　計
5～10	金　額							200	200
	人　員							1	1
10～15	金　額							264	264
	人　員							1	1
15～20	金　額								0
	人　員								0
20～25	金　額						438		438
	人　員						1		1
25～30	金　額							519	519
	人　員							1	1
30以上	金　額	979		849	809			689	3,326
	人　員	1		1	2			1	5
合計	金　額	979	0	849	809	0	438	1,672	4,747
	人　員	1	0	1	2	0	1	4	9

[2] 年度別支給状況

（単位　千円）

勤続年数＼年度別		30	31	2	3	4	合　計
5～10	金　額			400		200	600
	人　員			2		1	3
10～15	金　額	792	547	932	283	264	2,818
	人　員	3	2	3	1	1	10
15～20	金　額	767	358	767	767		2,659
	人　員	2	1	2	2		7
20～25	金　額	818	1,769	438		438	3,463
	人　員	2	4	1		1	8
25～30	金　額	1,223	1,298		519	519	3,559
	人　員	2	2		1	1	6
30以上	金　額	4,090	4,220	1,583	3,301	4,135	17,329
	人　員	5	5	2	5	5	22
合計	金　額	7,690	8,192	4,120	4,870	5,556	30,428
	人　員	14	14	10	9	9	56

25. 消防団員報酬等支給状況

（単位　円）

種　別	区　分	報　酬　額	
団員報酬	団長	年　額	163,000
	副団長	〃	121,900
	分団長	〃	90,300
	副分団長	〃	71,900
	部長	〃	52,600
	班長	〃	38,000
	団員	〃	36,500
	機能別団員	〃	6,000
技術報酬	消防ポンプ自動車専任運転手	月　額	3,500
	小型動力ポンプ積載車専任運転手	〃	3,000
出動報酬	水火災等の災害のため出動した者	4時間未満	4,000
		8時間未満	8,000
		8時間以上	※ 4,000
	水火災等の災害予防のため警戒出動又は待機をした者	4時間未満	2,000
		4時間以上	3,000
	消防訓練のため出動した者	1　回	2,000
	研修、講習又は訓練のため香川県消防学校に入校した者	日　額	4,000
分団運営負担金	分団割	年　額	20,000
	班割	〃	10,000
	団員割	〃	1,000

※　4時間未満につき4,000円を加算する

予　防

1. 防火対象物と防火管理者選任義務対象物状況

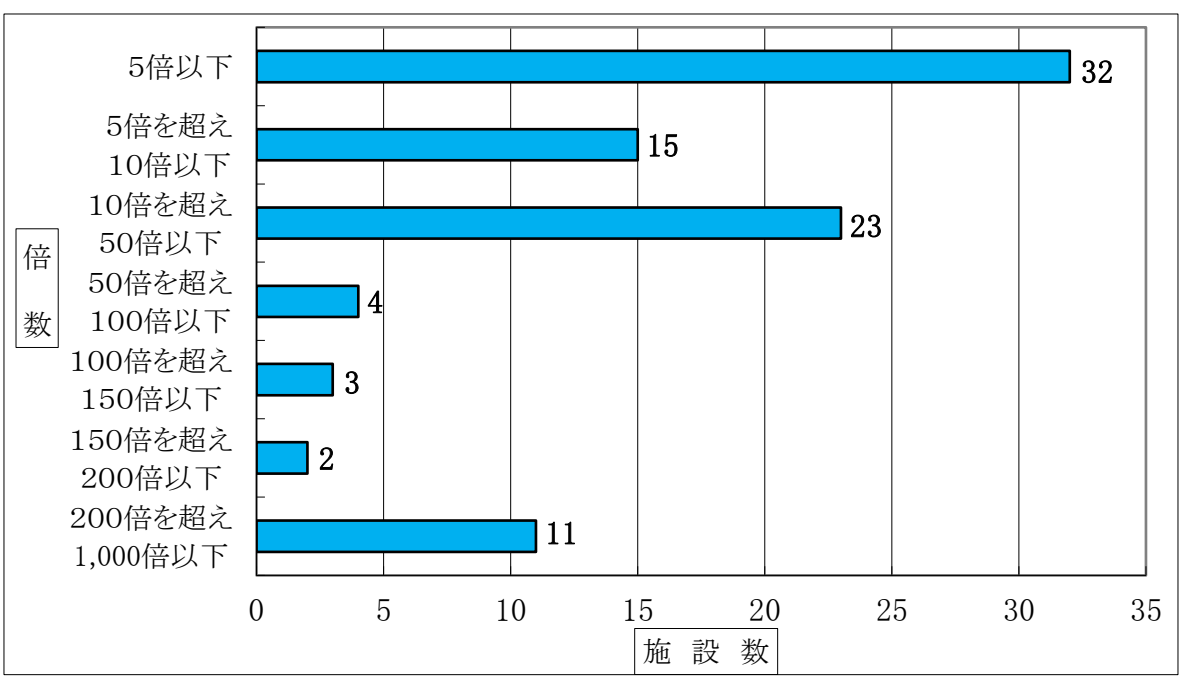
政令区分		業　態　別	防火対象物数（150㎡以上）	防火管理者対象物数
1	イ	劇場、映画館、観覧場	1	
	ロ	公会堂、集会場	27	15
2	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ類		
	ロ	遊技場、ダンスホール	5	5
	ハ	風俗営業等の規制及び業務の適正化に関する法律に規定する性風俗関連特殊営業を営む店舗その他これに類するものとして総務省令で定めるもの		
	ニ	カラオケボックスその他遊興のための設備又は物品を個室において客に利用させる役務を提供する業務を営む店舗で総務省令で定めるもの	1	1
3	イ	待合、料理店類		
	ロ	飲食店	37	27
4		百貨店、マーケット、その他の物品販売業を営む店舗又は展示場	68	44
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所	20	10
	ロ	寄宿舎、下宿、共同住宅	291	24
6	イ	病院、診療所、助産所	25	12
	ロ	老人短期入所施設、養護老人ホーム等	1	1
	ハ	老人ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ、軽費老人ホーム等	19	11
	ニ	幼稚園、養護学校	10	10
7		小、中、高、大、各種学校	69	11
8		図書館、博物館、美術館の類	4	2
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場熱気浴場類		
	ロ	イに掲げる以外の公衆浴場	1	1
10		車両の停車場、船舶の発着場		
11		神社、寺院、教会の類	32	13
12	イ	工場、作業場	158	15
	ロ	映画スタジオ、テレビスタジオ		
13	イ	自動車車庫、駐車場	25	
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫		
14		倉庫	176	3
15		前各項に該当しない事業場	168	18
16	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	122	52
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	94	15
16の2		地下街		
17		重要文化財、史跡等の建造物	2	
18		延長50メートル以上のアーケード	4	
19		市町村長の指定する山林		
20		自治省令で定める舟車		
合　計			1,360	290

2. 消防用設備等の点検報告対象物状況

政令区分		業態別	1年報告対象物		3年報告対象物		合計
			有資格者	その他	有資格者	その他	
1	イ	劇場、映画館、観覧場	1				1
	ロ	公会堂、集会場	1	19			20
2	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ類					
	ロ	遊技場、ダンスホール	4	1			5
	ハ	風俗営業等の規制及び業務の適正化に関する法律に規定する性風俗関連特殊営業を営む店舗その他これに類するものとして総務省令で定めるもの					
	ニ	カラオケボックスその他遊興のための設備又は物品を個室において客に利用させる役務を提供する業務を営む店舗で総務省令で定めるもの		1			1
3	イ	待合、料理店類					
	ロ	飲食店		37			37
4		百貨店、マーケット、その他の物品販売業を営む店舗又は展示場	12	45			69
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所	6	14			20
	ロ	寄宿舎、下宿、共同住宅			48	250	298
6	イ	病院、診療所、助産所	4	21			25
	ロ	老人短期入所施設、養護老人ホーム等	1				1
	ハ	老人ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ、軽費老人ホーム等	5	14			19
	ニ	幼稚園、養護学校	3	7			10
7		小、中、高、大、各種学校			39	25	64
8		図書館、博物館、美術館の類				4	4
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場熱気浴場類					
	ロ	イに掲げる以外の公衆浴場				1	1
10		車両の停車場、船舶の発着場					
11		神社、寺院、教会の類			3	20	23
12	イ	工場、作業場			44	111	155
	ロ	映画スタジオ、テレビスタジオ					
13	イ	自動車車庫、駐車場			4	20	24
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫					
14		倉庫			32	144	176
15		前各項に該当しない事業場			22	79	101
16	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	26	66			92
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物			16	41	57
16の2		地下街					
17		重要文化財、史跡等の建造物				2	2
18		延長50メートル以上のアーケード					
19		市町村長の指定する山林					
20		自治省令で定める舟車					
合計			63	225	208	697	1,193

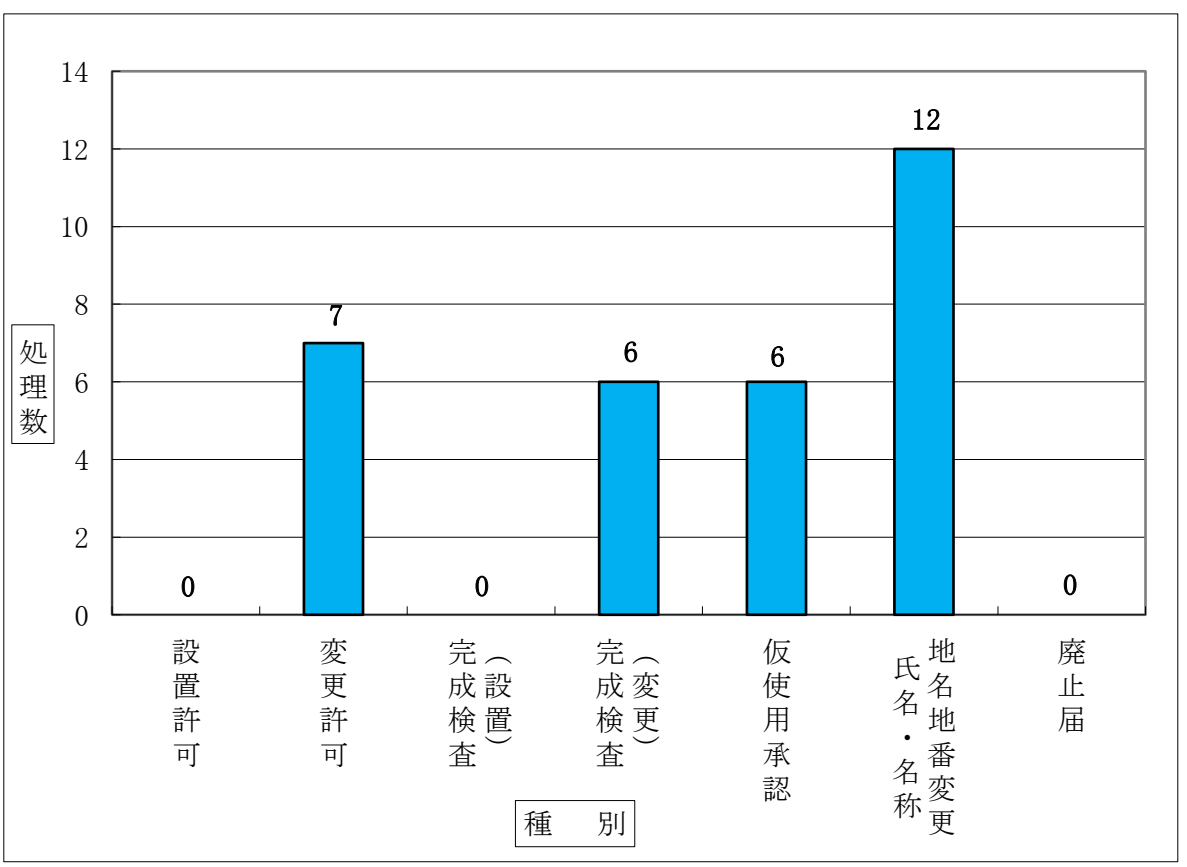
3. 指定数量別危険物施設状況

製造所等の別 / 数量の別	製造所	貯蔵所							取扱所			合計
		屋内貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	一般取扱所	小計	
5倍以下		5	1	2	16	4		28		4	4	32
5倍を超え10倍以下		4			1	3	1	9	3	3	6	15
10倍を超え50倍以下		5		3	5	4		17	5	1	6	23
50倍を超え100倍以下		2				1		3	1		1	4
100倍を超え150倍以下					2			2	1		1	3
150倍を超え200倍以下					1			1	1		1	2
200倍を超え1,000倍以下								0	10	1	11	11
合計	0	16	1	5	25	12	1	60	21	9	30	90



4. 危険物関係事務処理状況

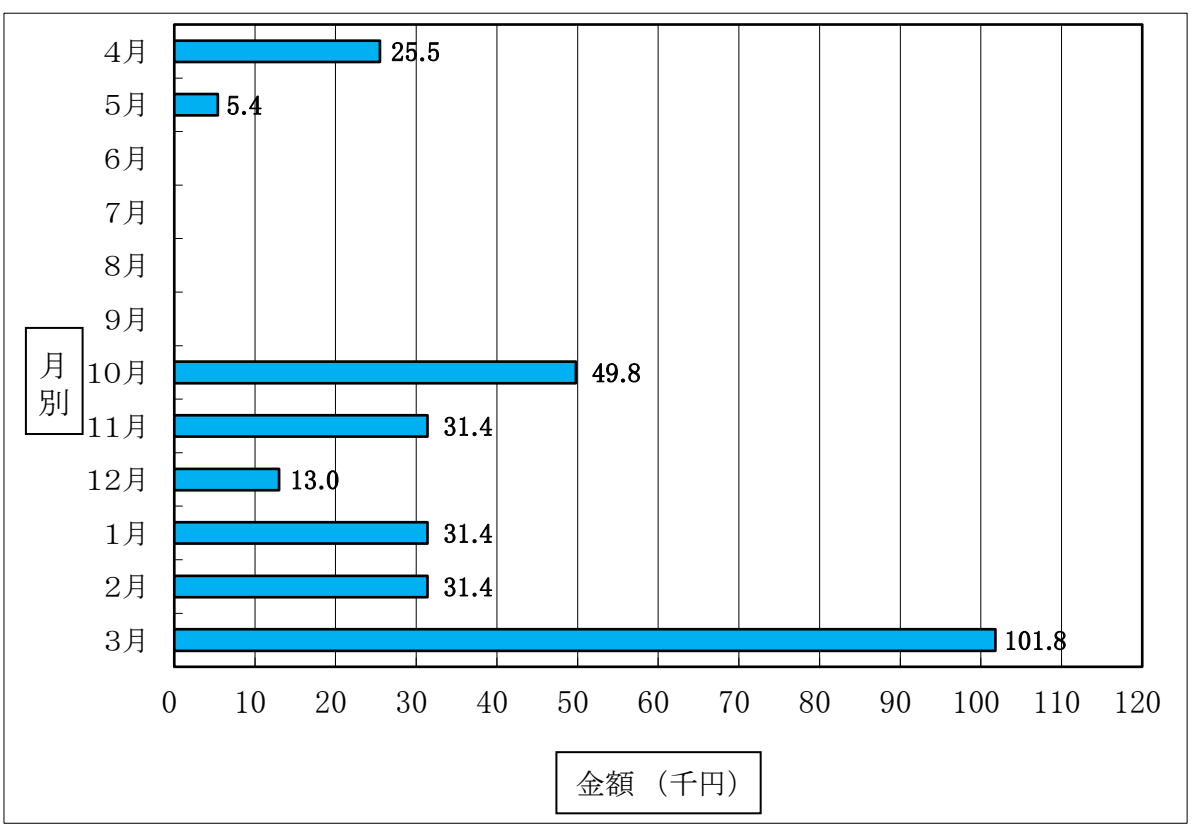
製造所等の別 / 種別	製造所	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	給油取扱所	一般取扱所	合計
設置許可											0
変更許可							1		6		7
完成検査（設置）											0
完成検査（変更）							1		5		6
仮使用承認									6		6
氏名・名称 地名地番変更		4			4				2	2	12
廃止届											0
合計	0	4	0	0	4	0	2	0	19	2	31



5. 消防関係手数料徴収状況

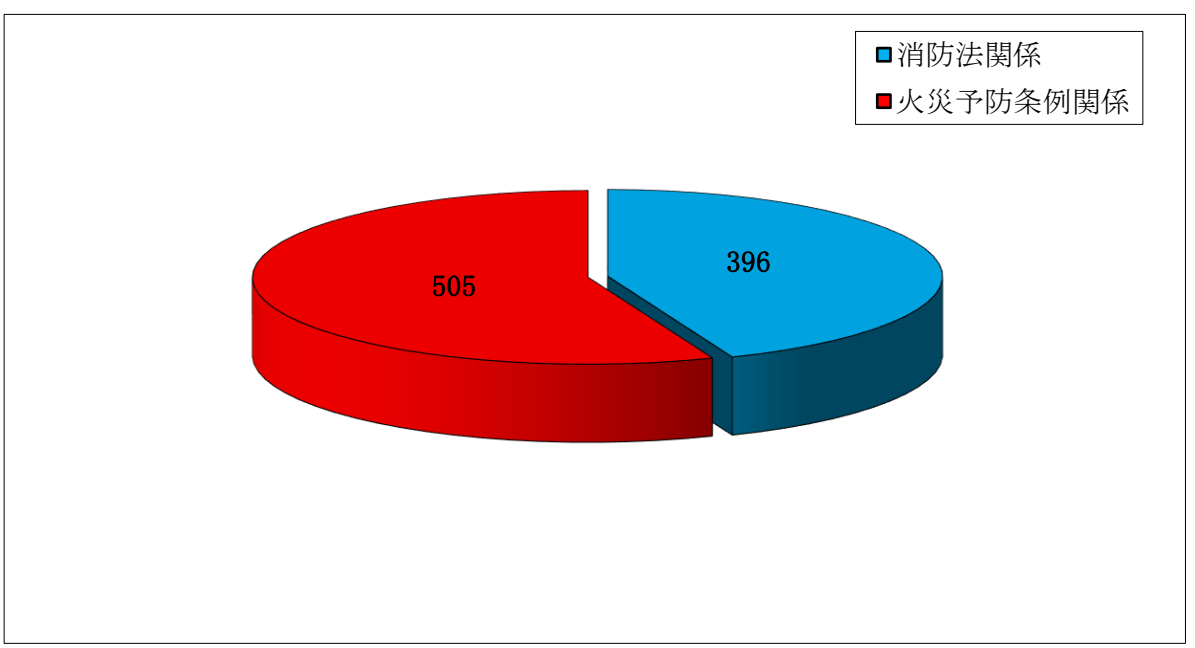
（単位千円）

区分 / 月別	危険物関係								各種証明等		合計	
	設置許可		変更許可		仮使用承認 仮貯蔵承認 仮取扱承認		完成検査					
	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額	件	金額
4			1	13.0	1	5.4	1	6.5	2	0.6	5	25.5
5					1	5.4					1	5.4
6											0	0.0
7											0	0.0
8											0	0.0
9											0	0.0
10			1	26.0	2	10.8	1	13.0			4	49.8
11			1	26.0	1	5.4					2	31.4
12							1	13.0			1	13.0
1			1	26.0	1	5.4					2	31.4
2			1	26.0	1	5.4					2	31.4
3			2	52.0	2	10.8	3	39.0			7	101.8
計	0	0.0	7	169.0	9	48.6	6	71.50	2	0.6	24	289.70



6. 各種届出事務処理状況

届出別 ＼ 月別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
消防法関係	消防用設備等着工届	2	3	3	0	2	1	7	2	2	2	3	3	30
	消防用設備等設置届	5	0	2	9	5	5	5	18	10	2	4	18	83
	防火管理者選解任届	3	2	2	0	0	4	6	1	8	0	4	10	40
	消防計画書届	11	1	4	0	1	4	5	1	8	0	1	12	48
	消防訓練実施報告書	18	12	26	11	3	17	16	26	15	11	9	19	183
	高圧ガス（LPGアセチレン等）届	1	0	2	1	0	1	1	2	1	0	0	3	12
火災予防条例関係	道路工事届	15	11	18	20	14	23	18	12	4	14	13	8	170
	煙火消費届	2	1	1	1	0	1	1	2	0	0	0	0	9
	ボイラー等設置届	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	4
	火災とまぎらわしい行為の届	13	52	37	14	13	10	31	22	19	23	29	19	282
	少量危険物貯蔵届	5	0	0	1	1	1	0	2	0	0	4	0	14
	防火対象物使用開始届	0	0	0	1	1	1	2	4	1	2	2	3	17
	変電・発電・蓄電等設置届	0	0	1	0	0	0	1	2	2	0	2	1	9
合計		75	84	96	58	41	68	93	95	70	54	71	96	901



7. 中高層建築物用途別棟数

業態別 ＼ 階数別			4	5	6	7	8	9以上	合計
3	イ	料理店							0
	ロ	飲食店							0
4		店舗	1						1
5	イ	旅館			1				1
	ロ	共同住宅	36	16	3	3	4	1	63
6	イ	病院	1	2		1			4
	ロ	老人短期入所施設等							0
	ハ	老人ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ等	1	2					3
7		学校	3	1	2				6
11		寺院							0
12	イ	工場	1	1	1				3
14		倉庫	2	1					3
15		前各項に該当しない事業場	6	3					9
16	イ	特定部分を含む複合施設	10	6		2			18
	ロ	その他の複合	13	3	1				17
17		重要文化財		1					1
住宅等			10						10
合計			84	36	8	6	4	1	139

8. 建築同意処理状況

区分	新築	増築	その他	合計
平成２８年度	39	3		42
平成２９年度	36	1		37
平成３０年度	55	4		59
平成３１年度	40	1		41
令和２年度	29	5		34
令和３年度	52	0	4	56
令和４年度	46	2	2	50

9. 用途別同意処理状況

業態別 ＼ 月別			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1	イ	劇場、映画館、観覧場													
	ロ	公会堂、集会場													
2	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ類													
	ロ	遊技場、ダンスホール													
	ニ	カラオケボックス													
3	イ	待合、料理店類													
	ロ	飲食店													
4		百貨店、マーケット、その他の物品販売業を営む店舗又は展示場					2	1		2			1		6
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所													
	ロ	寄宿舎、下宿、共同住宅			1		1								2
6	イ	病院、診療所、助産所		1		1									2
	ロ	老人福祉施設、更生施設等													
	ハ	老人デイサービス、保育所等													
	ニ	幼稚園、養護学校													
7		小、中、高、大、各種学校													
9		図書館、博物館、美術館の類													
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場熱気浴場類													
	ロ	イに掲げる以外の公衆浴場													
10		停車場、発着場													
11		神社、寺院、教会の類													
12	イ	工場、作業場		1		1	1		1		1				5
13	イ	自動車車庫、駐車場													
14		倉庫	1				2		1						4
15		前各項に該当しない事業場			1	1				1				1	4
16	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物													
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物				1									1
その他		住宅等	3	3	1	3	1			4	1	1	3	6	26
合計			4	5	3	7	7	1	2	7	2	1	4	7	50

10. 自主防災組織状況

善通寺市危険物安全協会（設立・昭和50年10月27日）

会員数　54事業所　　表 彰 歴

平成元年　全国危険物安全協会理事長表彰

平成 4年　消防庁長官表彰

善通寺市少年婦人防火委員会（設立・昭和55年2月27日）

善通寺市少年消防クラブ
善通寺市婦人防火クラブ
（各校区、支部）

【少年消防クラブ】

名称	結成年月日	クラブ員数	表彰歴
善通寺市少年消防クラブ	昭和55年 4月29日	総数15名	香川県幼少年婦人防火委員会会長表彰
中央校区 第9分会	平成30年 4月 1日	15名	―

【婦人防火クラブ】

名称	結成年月日	クラブ員数	表彰歴
善通寺市婦人防火クラブ	昭和55年 3月12日	総数401名	香川県幼少年婦人防火委員会会長表彰
竜川支部	昭和55年 3月29日	105名	昭和 62年
与北支部	昭和55年 3月30日	109名	平成 3年
中央支部	昭和55年 4月13日	187名	昭和 60年

消防防災

1. 消防機械配置状況

区　　分	消防ポンプ自動車 屈折はしご付	救助工作車	水槽付消防ポンプ自動車	消防ポンプ自動車	資機材搬送車	小型動力ポンプ積載車	小型動力ポンプ	高規格救急自動車	指令広報車等	指揮支援車	連絡車	火災原因調査車	合計
消防本部・署	1	1	1	2	2		2	3		1	1	1	15
消防団				2		15	15		3				35
合　　計	1	1	1	4	2	15	17	3	3	1	1	1	50

2. 署の自動車種別表

区　　分	車　　名	年式	総排気量(リットル)	ポンプ種別	級別		備　　考
消防1号車	ヒノ	H28	6.403				救工Ⅱ型
消防2号車	ヒノ	R2	5.12	モリタ	A-2		水Ⅱ型
消防3号車	ヒノ	H17	4.09	小川	A-2		CD-Ⅰ型
消防4号車	トヨタ	R4	2.69				指揮支援車
消防5号車	ニッサン	R1	1.99				火災原因調査車
消防6号車	ヒノ	H29	4.00	モリタ	A-2		CD-Ⅰ型
消防7号車	ダイハツ	H15	0.65				資機材搬送車
消防8号車	ヒノ	H30	8.86	モリタ	A-2 25m		屈折はしご車
救急1号車	トヨタ	H25	2.69		高規格		
救急2号車	トヨタ	R1	2.69		高規格		
救急3号車	トヨタ	H22	2.69		高規格		
その他	ダイハツ	H30	0.65				連絡車
その他	トヨタ	H11	1.99				資機材搬送車

3. 団の自動車種別表

区　　分	車 名	年式	総排気量 (リットル)	ポンプ 種 別	級別	備　　考
本　部　分　団	トヨタ	H22	4.00	日本機械	A-2	ポンプ車
第　1　分　団	イスズ	H31	2.99	モリタ	A-2	ポンプ車
第 2 分 団　大 麻	トヨタ	H16	1.99			小型動力 ポンプ積載車
第 2 分 団　生 野	イスズ	H22	2.99			小型動力 ポンプ積載車
第　3　分　団	トヨタ	H13	1.99			小型動力 ポンプ積載車
第 4 分 団　下 吉 田	トヨタ	H12	1.99			小型動力 ポンプ積載車
第 4 分 団　稲 木	トヨタ	H23	1.99			小型動力 ポンプ積載車
第 5 分 団　東 部	トヨタ	H30	1.99			小型動力 ポンプ積載車
第 5 分 団　中 部	トヨタ	H22	1.99			小型動力 ポンプ積載車
第 5 分 団　西 部	トヨタ	R3	1.99			小型動力 ポンプ積載車
第 6 分 団　原 田	トヨタ	H30	1.99			小型動力 ポンプ積載車
第 6 分 団　金 蔵 寺	トヨタ	H20	1.99			小型動力 ポンプ積載車
第 6 分 団　木 徳	トヨタ	H16	1.99			小型動力 ポンプ積載車
第 7 分 団　中 村	トヨタ	R4	1.99			小型動力 ポンプ積載車
第 7 分 団　弘 田	トヨタ	H28	1.99			小型動力 ポンプ積載車
第　8　分　団　南	トヨタ	R3	1.99			小型動力 ポンプ積載車
第　8　分　団　北	イスズ	H25	2.99			小型動力 ポンプ積載車
消　防　団　本　部	ダイハツ	H22	0.65			防災活動車
消　防　団　本　部	ミツビシ	H22	1.99			指揮広報車
消　防　団　本　部	ニッサン	H29	1.59			広報車

4. 小型動力ポンプ種別表

区　　分	メーカー	級　別	年　式	総合呼称	KW (検定出力)	購入年月
消　防　署	トーハツ	B－3	H22	JF53AS	22 (29)	H 22.1
消　防　署	トーハツ	C－1	H20	V20E	8.6 (11)	H 20.2
第2分団　大麻	シバウラ防災	B－3	H16	P455M	28 (38)	H 16.2
第2分団　生野	シバウラ防災	B－2	H22	B756	46 (62)	H 22.3
第3分団	シバウラ防災	B－3	H13	P455M	28 (38)	H 11.1
第4分団　下吉田	シバウラ防災	B－3	H12	P455M	28 (38)	H 12.1
第4分団　稲木	シバウラ防災	B－3	H23	Fi7000	32 (43)	H 23.10
第5分団　東部	シバウラ防災	B－3	H30	FF400	32 (43)	H 30.1
第5分団　中部	シバウラ防災	B－3	H22	Fi6000	32 (43)	H 22.3
第5分団　西部	シバウラ防災	C－1	R3	FT300M	8.8 (12)	R 3.12
第6分団　原田	シバウラ防災	B－3	H30	FF400	32 (43)	H 30.1
第6分団　金蔵寺	シバウラ防災	B－3	H20	P455M	32 (43)	H 20.1
第6分団　木徳	シバウラ防災	B－3	H16	P455M	28 (38)	H 16.1
第7分団　中村	シバウラ防災	C－1	R4	FT300M	32 (43)	R 4.4
第7分団　弘田	シバウラ防災	B－3	H28	SF651 ZFi	30 (40)	H 28.2
第8分団　南	シバウラ防災	C－1	R3	FT300M	8.8 (12)	R 3.12
第8分団　北	トーハツ	B－2	H25	VF63AS	22 (29)	H 25.2

5. 消防機械等経過年数状況

区分	消防署（経過年数）						消防団（経過年数）								合計
	1年未満	1年以上	3年以上	7年以上	10年以上	小計	1年未満	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	15年以上	小計	
屈折はしご付消防ポンプ自動車			1			1									1
救助工作車						0									0
水槽付消防ポンプ自動車		1				1									1
消防ポンプ自動車			1		1	2			1			1		2	4
資機材搬送車					2	2									2
小型動力ポンプ積載車							1	2	2		1	5	4	15	15
小型動力ポンプ					2	2		2	2		1	5	5	15	17
高規格救急自動車			1		1	2									2
指令広報車等			1						1			2		3	3
火災原因調査車		1													1
連絡車			1			1									1
指揮支援車	1					1									1

6. 消防水利施設状況

区分	消火栓			防火水槽				合計
	75mm以下	100mm以上	小計	50t未満	50t以上100t未満	100t以上	小計	
本部分団	13	57	70	6		2	8	78
第1分団	11	84	95	12	1	2	15	110
第2分団	33	93	126	11		1	12	138
第3分団	20	36	56	10	2	1	13	69
第4分団	19	42	61	2		1	3	64
第5分団	20	53	73	14		1	15	88
第6分団	62	75	137	13		1	14	151
第7分団	35	71	106	8		1	9	115
第8分団	22	44	66	10		1	11	77
合計	235	555	790	86	3	0	100	890

7. 有線通信施設状況

名　　称	番　　号	回線	摘　　要
加入電話	(代)0877-64-0119	5	消　防　署
ファクシミリ	0877-62-0119	1	消　防　署
団指令ファクシミリ		13	消 防 屯 所
庁内電話		50	消 防 本 部
直通電話		1	市　役　所

8. 無線通信設備状況

【デジタル波】車載

局の種別	呼出名称	アナログ	デジタル									空中線電力(W)		購入年月	積載車両等
		防災相互波	主運用波	主波 1 4 5 2 3 7	統制波1	統制波2	統制波3	活動波1	活動波2	活動波3	活動波4	アナログ	デジタル		
移動局(車載)	善通寺消防1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	5	H25.3	救助工作車
移動局(車載)	善通寺消防2	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	5	H25.3	水Ⅱポンプ車
移動局(車載)	善通寺消防3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	5	H25.3	CD-Ⅰポンプ車
移動局(車載)	善通寺消防4	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	5	H25.3	指揮支援車
移動局(車載)	善通寺消防5	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	5	H25.3	火災原因調査車
移動局(車載)	善通寺消防6	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	5	H25.3	CD-Ⅰポンプ車
移動局(車載)	善通寺消防8	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	5	H25.3	25m屈折梯子車
移動局(車載)	善通寺救急1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	5	H25.3	高規格救急車
移動局(車載)	善通寺救急2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	5	H25.3	高規格救急車
移動局(車載)	善通寺救急3	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	5	H25.3	高規格救急車

【デジタル波】その他

局の種別	呼出名称	デジタル									空中線電力(W)	購入年月	積載車両等
		主運用波	主波 1 2 3 4 5 7	統制波1	統制波2	統制波3	活動波1	活動波2	活動波3	活動波4	デジタル		
半固定	善通寺消防20	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5	H25.3	事務所(無線)
半固定	善通寺消防21	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5	H25.3	市役所(防災課)
可搬型移動局	善通寺消防100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5	H25.3	指揮支援車
移動局(携帯)	善通寺消防101	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	H25.3	
移動局(携帯)	善通寺消防102	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	H25.3	
移動局(携帯)	善通寺消防103	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	H25.3	
移動局(携帯)	善通寺消防104	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	H25.3	
移動局(携帯)	善通寺消防105	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	H25.3	
移動局(携帯)	善通寺消防106	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	H25.3	
移動局(携帯)	善通寺消防107	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	H25.3	
移動局(携帯)	善通寺消防108	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	H25.3	
移動局(携帯)	善通寺消防109	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	H25.3	
移動局(携帯)	善通寺消防110	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	H25.3	

9. 消防団専用署活動無線機設置状況

局の種別	呼出名称	周波数(MHz帯)	空中線電力(W)	電波の形式	設置場所
一般業務用携帯型無線機	善通寺消防団 1～3	400	1	F3E	団本部
一般業務用携帯型無線機	善通寺消防団 4	400	1	F3E	本部分団
一般業務用携帯型無線機	善通寺消防団 5	400	1	F3E	第１分団
一般業務用携帯型無線機	善通寺消防団 6 7	400	1	F3E	第２分団
一般業務用携帯型無線機	善通寺消防団 8	400	1	F3E	第３分団
一般業務用携帯型無線機	善通寺消防団 9 10	400	1	F3E	第４分団
一般業務用携帯型無線機	善通寺消防団 11～13	400	1	F3E	第５分団
一般業務用携帯型無線機	善通寺消防団 14～16	400	1	F3E	第６分団
一般業務用携帯型無線機	善通寺消防団 17 18	400	1	F3E	第７分団
一般業務用携帯型無線機	善通寺消防団 19 20	400	1	F3E	第８分団

10. 消防団専用トランシーバー設置状況

局の種別	呼出名称	周波数(MHz帯)	空中線電力(mW)	電波の形式	設置場所
特定小電力型トランシーバー	善通寺消防団 1 2	400	10	F3E	団本部
特定小電力型トランシーバー	善通寺消防団 3～8	400	10	F3E	本部分団
特定小電力型トランシーバー	善通寺消防団 9～14	400	10	F3E	第１分団
特定小電力型トランシーバー	善通寺消防団 15～24	400	10	F3E	第２分団
特定小電力型トランシーバー	善通寺消防団 25～30	400	10	F3E	第３分団
特定小電力型トランシーバー	善通寺消防団 31～40	400	10	F3E	第４分団
特定小電力型トランシーバー	善通寺消防団 41～55	400	10	F3E	第５分団
特定小電力型トランシーバー	善通寺消防団 56～70	400	10	F3E	第６分団
特定小電力型トランシーバー	善通寺消防団 71～80	400	10	F3E	第７分団
特定小電力型トランシーバー	善通寺消防団 81～90	400	10	F3E	第８分団

火災統計

1. 火災一目統計

火災発生件数	.....	14 件
損害額	.....	53,800 千円

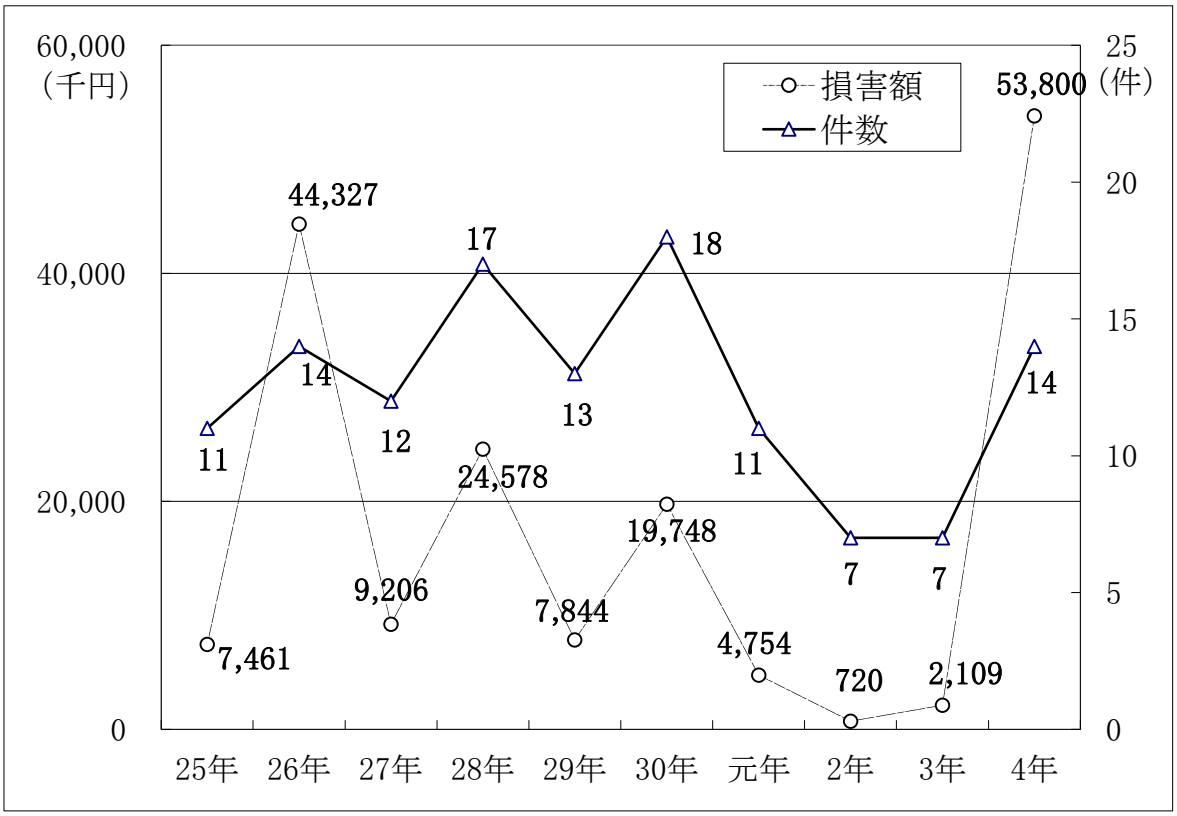
1ケ月平均出火件数	....	1.2 件
1ケ月平均損害額	..	4,483 千円
出火率(人口1万人当たり)	....	4.6 件

気象から見た火災状況		
天気	.....	晴
温度	.....	15～30℃
湿度	.....	40～50％

火災の多い月	....	2月
火災の多い曜日	....	土、日曜日
火災の多い時間帯	....	14～16時

火災の多い種別	....	建物
多い出火原因	....	たき火

2. 過去10年間の火災発生件数と損害額の推移



3. 火災概要

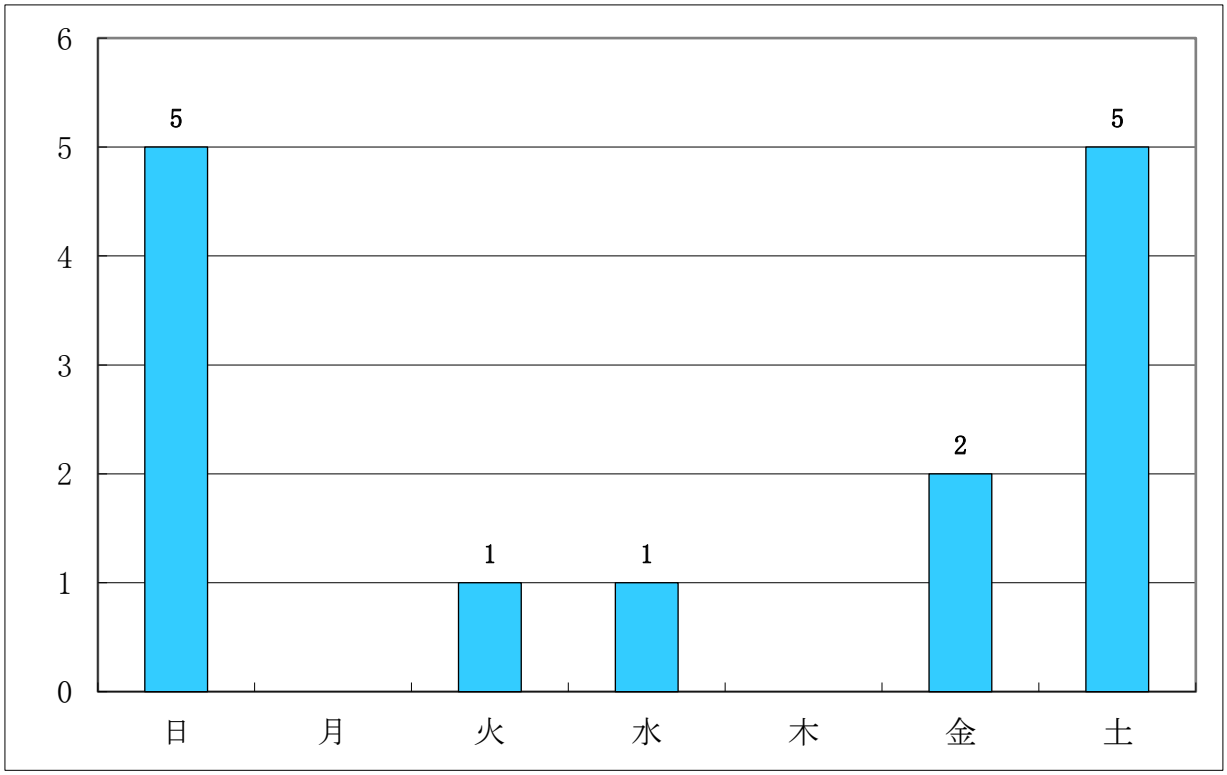
区分			令和4年 (A)	令和3年 (B)	対前年増減率 (A)-(B) (C)	増減率(%) (C)/(B)×100
合計		件数	14	7	7	100
		損害額(千円)	53,800	2,109	51,691	2,451
火災種別	建物火災(車両損害額含む)	件数	5	4	1	25
		焼損面積(㎡)	1,969	264	1,705	646
		損害額(千円)	53,532	2,108	51,424	2,439
	林野火災	件数	0	0	0	0
		焼損面積(a)	0	0	0	0
		損害額(千円)	0	0	0	0
	車両火災	件数	3	0	3	皆増
		損害額(千円)	268	0	268	皆増
	その他火災	件数	6	3	3	100
		損害額(千円)	0	1	△1	皆減
焼損棟数		計	10	4	6	150
		ぼや	4	0	4	皆増
		部分焼	2	1	1	100
		半焼	1	0	1	皆増
		全焼	3	3	0	0
人的災害		死者	0	0	0	0
		負傷者	2	0	2	皆増
罹災世帯数		計	3	2	1	50
		小損	2	1	1	100
		半損	0	0	0	0
		全損	1	1	0	0
罹災人員			7	2	5	250
1ケ月平均出火件数			1	1	1	100
1ケ月平均損害額(千円)			4,483	176	4,308	2,451
1日平均損害額(千円)			147	6	142	2,451
1件平均損害額(千円)			3,843	301	3,542	1,175
1件平均焼損面積		建物(㎡)	394	66	328	497
		林野(a)	0	0	0	0
出火率(人口1万人当たり)		全国	3	3	0	4
		香川県	4	3	1	15
		善通寺市	5	2	2	103

4. 月別種類別火災状況

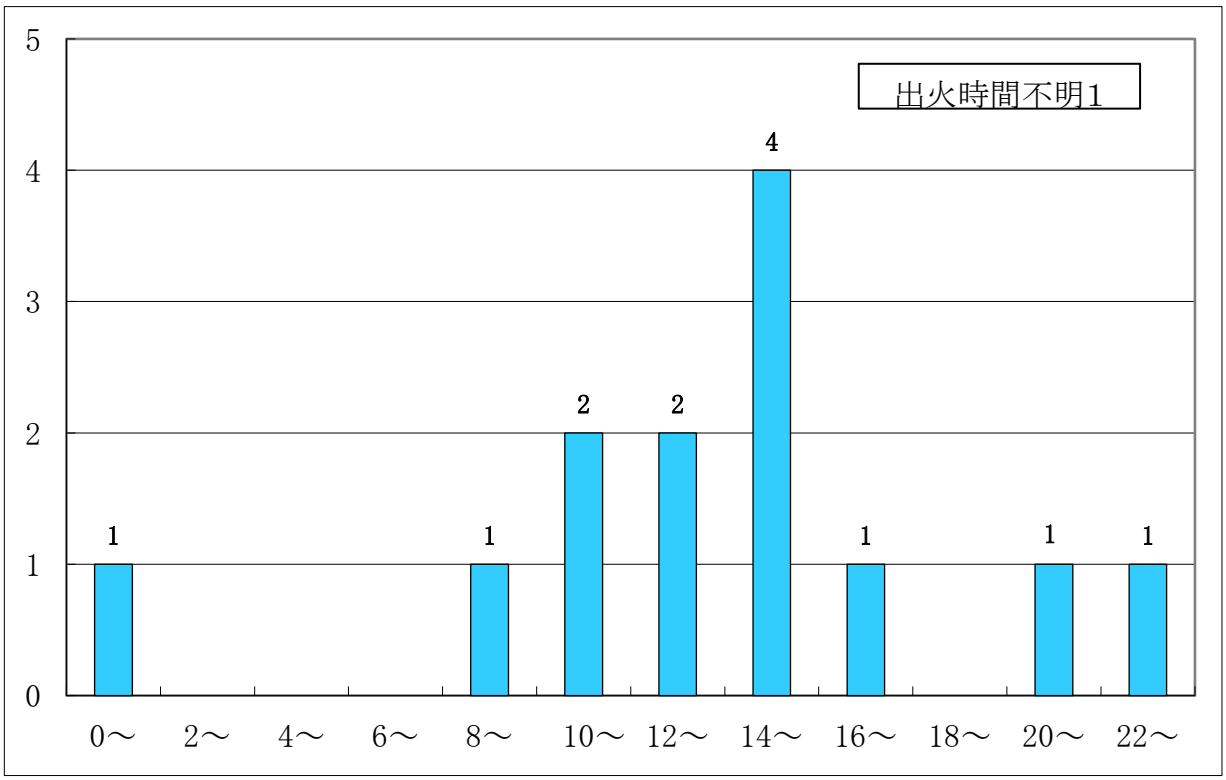
区分 / 月別	火災件数					焼損棟数					死傷者		り災世帯数	り災人員	焼損面積		損害額（千円）					出動人員		
	建物火災	林野火災	車両火災	その他火災	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	死者	負傷者			建物（㎡）	林野（a）	建物火災	林野火災	車両火災	その他火災	計	本部・署	団	計
1月					0					0											0			0
2月	2		1		3				2	2		1	1	1			9		91		100	5		5
3月	1			1	2	3		1	2	6		1	2	6	1,957		52,342				52,342	57	75	132
4月					0					0											0			0
5月			1	1	2					0											0	21		21
6月	1			1	2		1			1					12		350				350	18		18
7月				1	1					0											0	7		7
8月			1		1					0									177		177	8	5	13
9月					0					0											0			0
10月				1	1					0											0	7	3	10
11月				1	1					0											0	19	7	26
12月	1				1			1		1							831				831	21	28	49
計	5	0	3	6	14	3	1	2	4	10	0	2	3	7	1,969	0	53,532	0	268	0	53,800	163	118	281

5. 火災状況

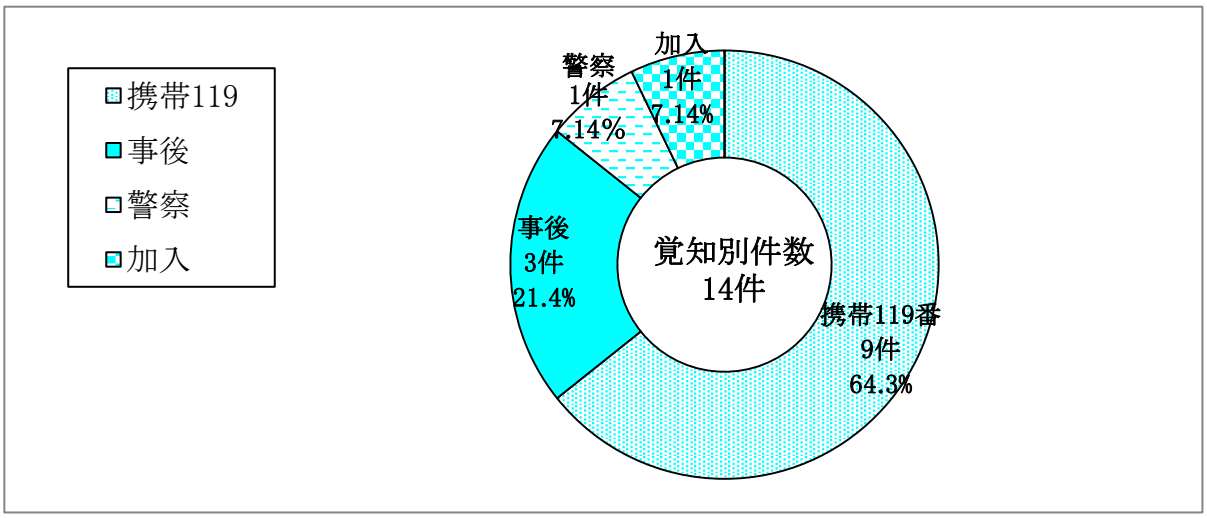
[1] 曜日別出火件数



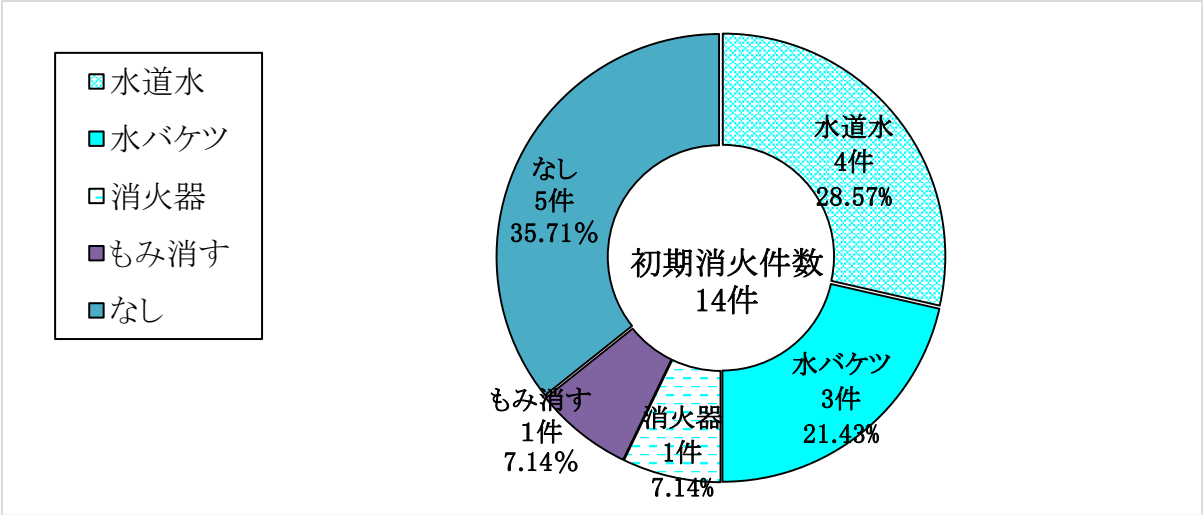
[2] 時間別出火件数



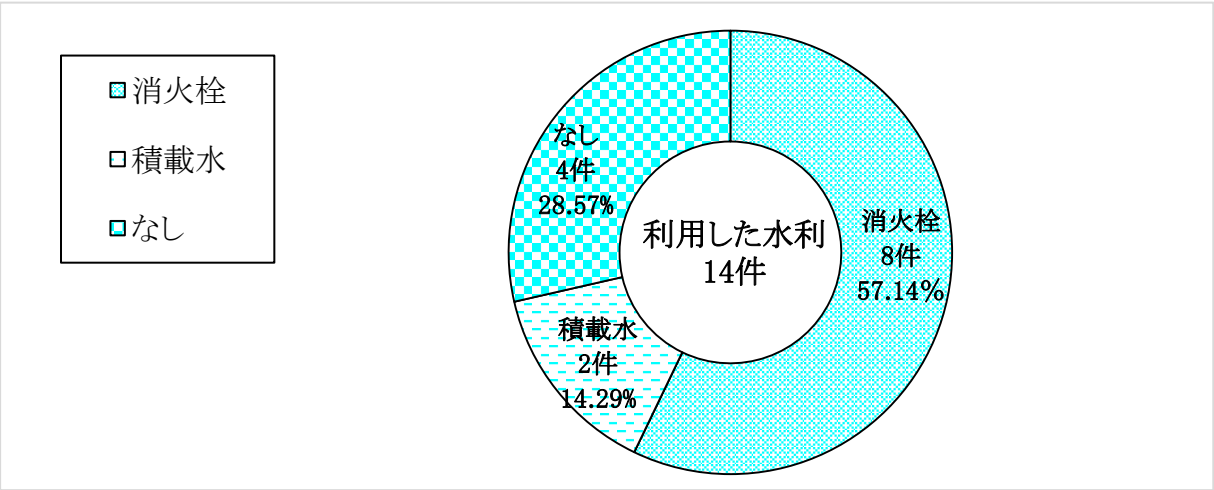
[3] 覚知別出場件数



[4] 初期消火状況

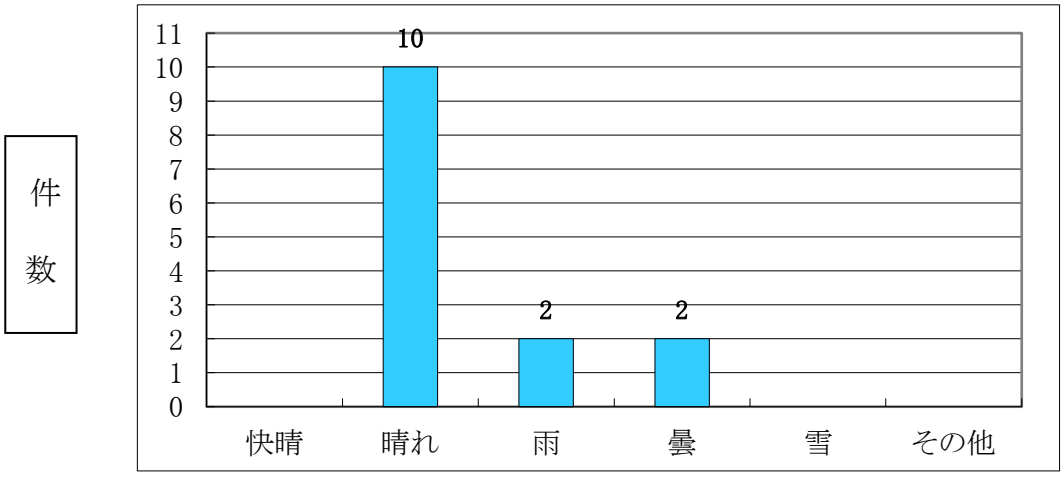


[5] 主に利用した水利

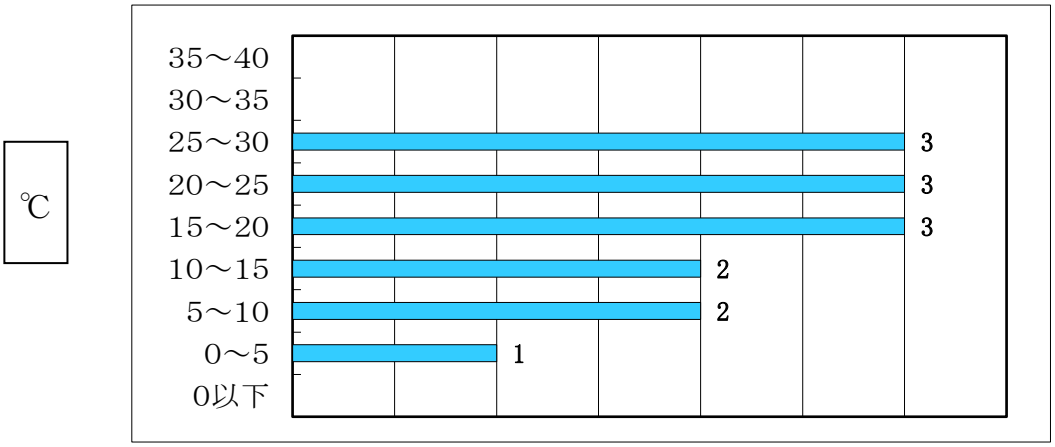


6. 気象別火災状況

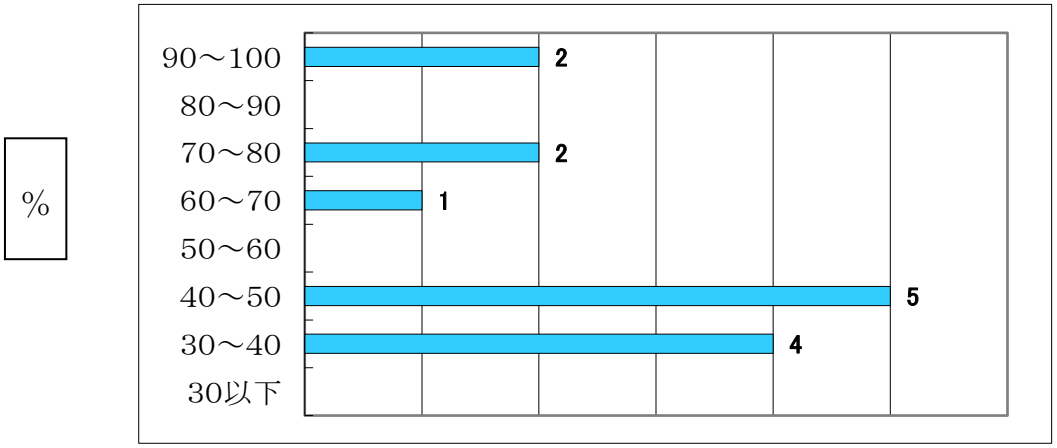
［1］ 天気別火災状況



［2］ 温度別火災状況



［3］ 湿度別火災状況

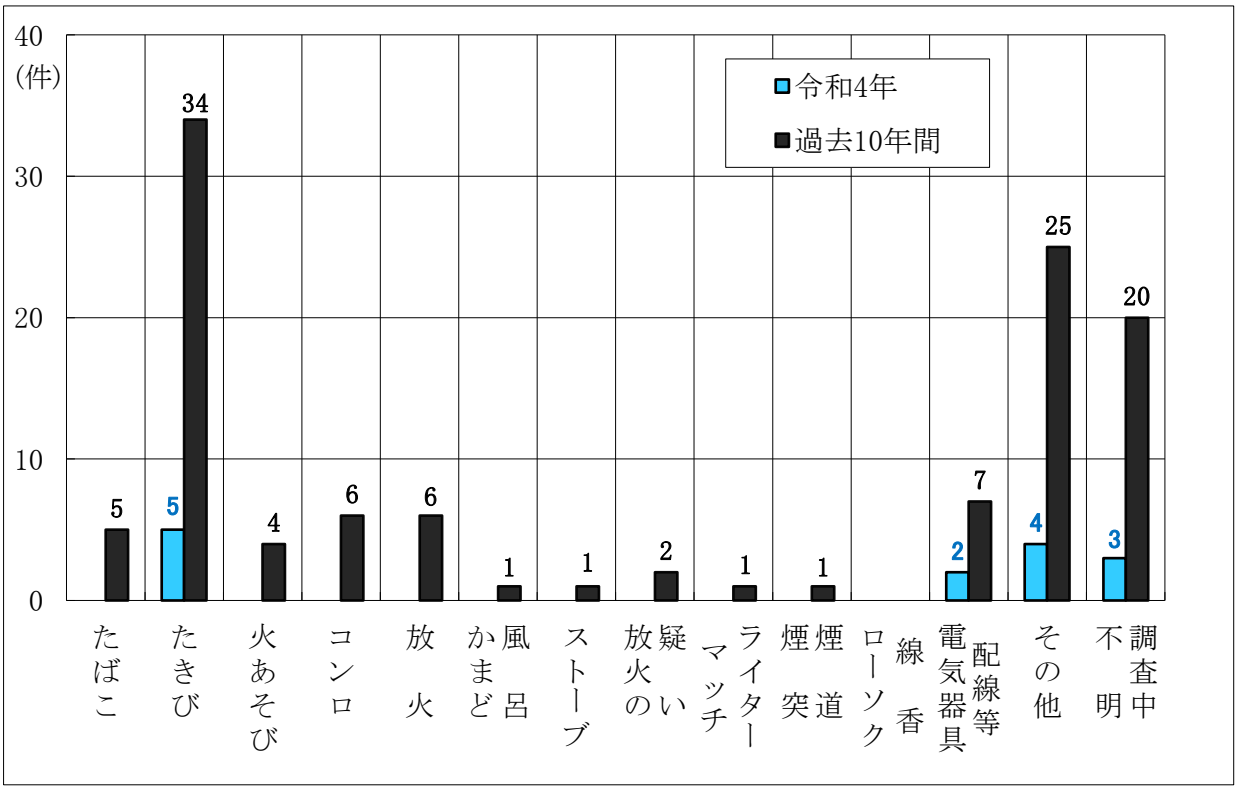


7. 火災損害額状況

[1] 原因別出火状況

区分 / 原因	件数					損害額				
	建物火災	林野火災	車両火災	その他火災	計	建物火災	林野火災	車両火災	その他火災	計
たばこ					0					0
たき火				5	5					0
火あそび					0					0
こんろ					0					0
放火					0					0
風呂かまど					0					0
ストーブ					0					0
放火疑い					0					0
マッチ・ライター					0					0
煙突・煙道					0					0
ローソク・線香					0					0
電気器具配線等	1		1		2	831				831
その他	3			1	4	52,696				52,696
不明・調査中	1		2		3	5		268		273
合計	5	0	3	6	14	53,532	0	268	0	53,800

[2] 過去10年間の出火原因



[3] 建物火災用途別損害額

区　　分	棟 数	焼 損 面 積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	建 物 損 害 額 (千　円)
住　　宅	1			4
店　　舗				
店舗併用住宅				
工　　場	7	1,957	48.0	53,173
共 同 住 宅				
倉 庫 ・ 納 屋	2	12		355
神 社 ・ 仏 閣				
そ　の　他				
合　　計	10	1,969	48	53,532

救急統計

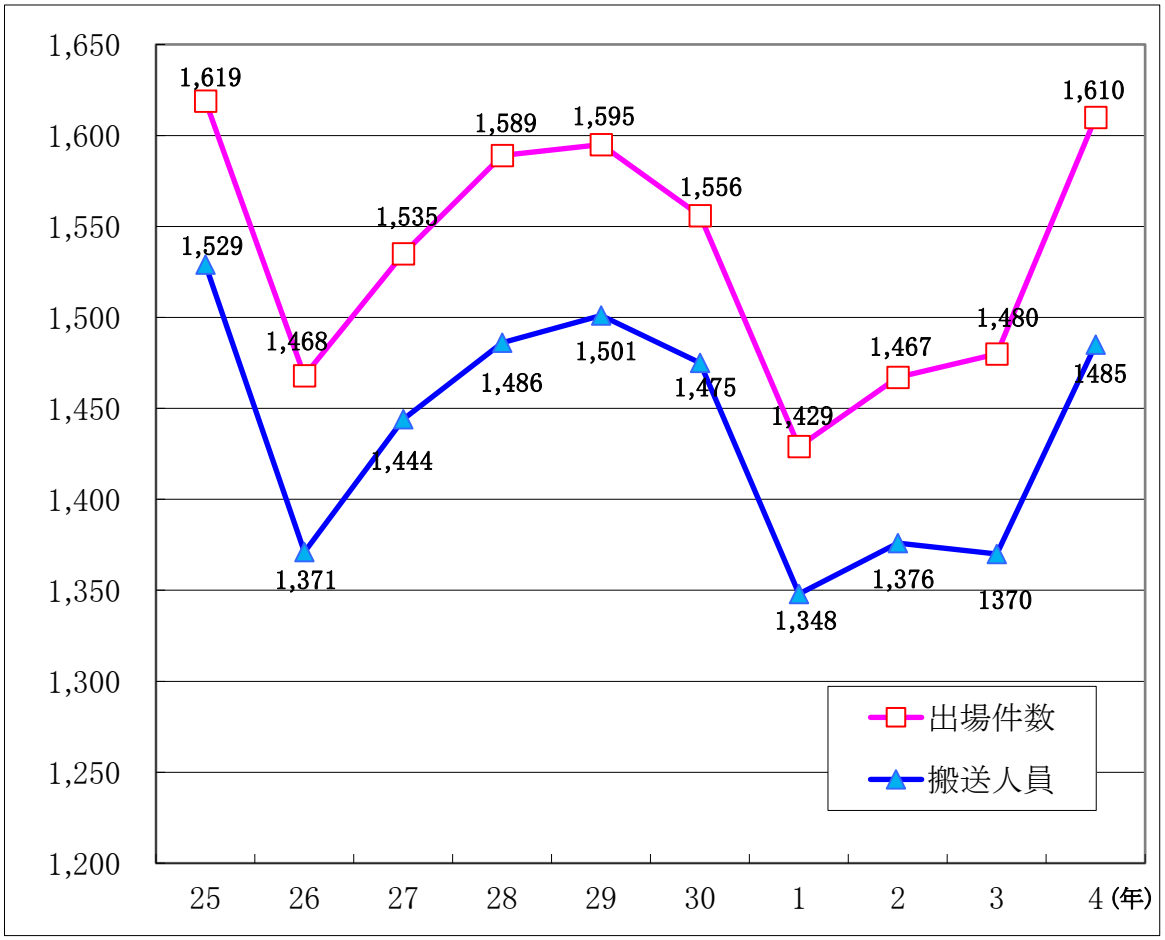
1. 救急一目統計

出場件数の割合

急病	交通	一般	その他
1,033　件	106　件	248　件	223　件
64.2%　%	6.6%　%	15.4%　%	13.9%　%

出場件数	1,610　件	救急の多い月	12　月
搬送人員	1,485　人	救急の多い曜日	水曜日
救急搬送者の割合市民	20 人に1人		
1日当り平均出場件数	4.4　件	救急の多い時間帯	12～14　時

2. 過去10年間の救急出場件数と搬送人員の推移



3. 月別事故別救急出場及び搬送状況

月別	事故別	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他 転搬院送	その他 医搬師送	その他 資搬器材送	その他 その他	合計
1月	出場件数				8			21		6	78	9				122
	搬送人員				7			19		3	68	9				106
2月	出場件数	1			9	3	1	16			98	11				139
	搬送人員	1			8	3	1	15			93	11				132
3月	出場件数				7	1		17			97	16				138
	搬送人員				7	1		15			94	16				133
4月	出場件数				9	2	1	17	1	1	80	15				126
	搬送人員				9	2	1	14	1	1	73	15				116
5月	出場件数				11	2		27		2	72	13				127
	搬送人員				13	2		27		2	69	13				126
6月	出場件数				8	3	1	17	1	2	77	14				123
	搬送人員				8	3	1	16	1	2	74	14				119
7月	出場件数				9	4		19		3	100	11				146
	搬送人員				10	4		18		1	90	11				134
8月	出場件数				6	4		12	1	1	102	11				137
	搬送人員				6	3		12	1		83	11				116
9月	出場件数				9	1	1	16			84	16				127
	搬送人員				6	1	1	15			73	16				112
10月	出場件数				11	1	3	31			71	20			1	138
	搬送人員				10	1	3	30			64	20				128
11月	出場件数				11	1	1	26		3	71	11				124
	搬送人員				10	1	1	24		3	65	11				115
12月	出場件数				8		1	29	2	1	103	19				163
	搬送人員				8		1	28	2	1	89	19				148
合計	出場件数	1	0	0	106	22	9	248	5	19	1,033	166	0	0	1	1,610
	搬送人員	1	0	0	102	21	9	233	5	13	935	166	0	0	0	1,485

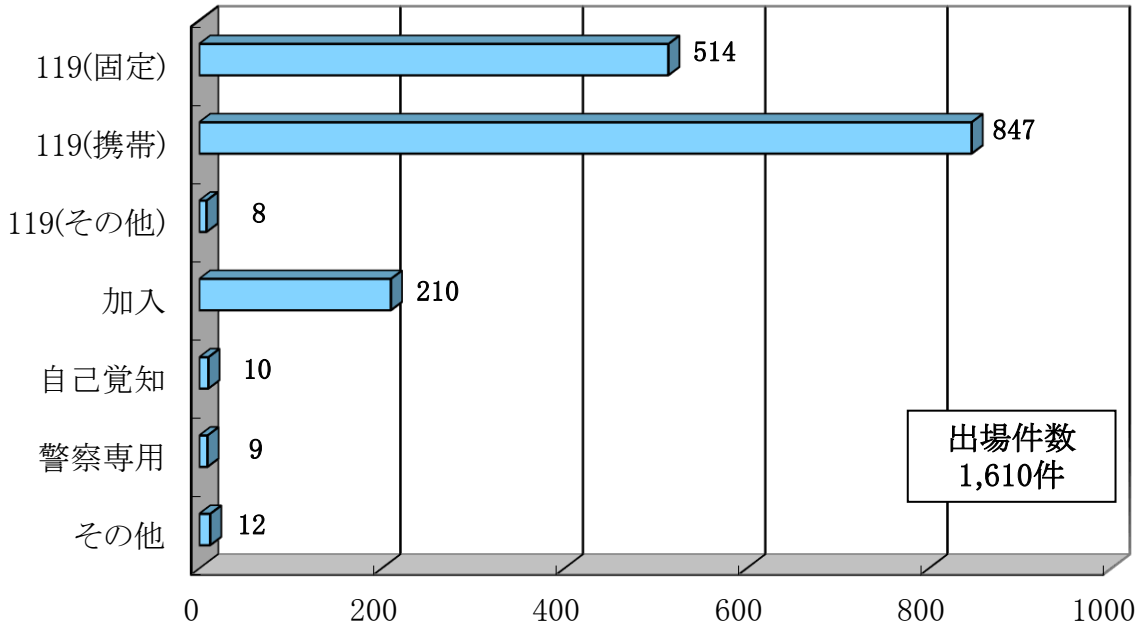
4. 傷病程度別搬送状況

種別 / 傷病程度分類	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
死 亡				2						14	1	17
重 症				7			30		2	81	42	162
中等症				16	5	2	81	2	10	372	105	593
軽 症	1			77	16	7	122	3	1	468	18	713
その他												0
合 計	1	0	0	102	21	9	233	5	13	935	166	1,485

5. 時間別救急出場状況

種別 / 時間帯	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
0～	1			1			10		1	38	3	54
2～				3			7	1		40	4	55
4～				5			7		2	47	2	63
6～				5			20		1	87	1	114
8～				7	3		32		1	120	12	175
10～				16	6	2	38		3	96	45	206
12～				16	5	1	32		2	120	39	215
14～				7	5	2	30	2	1	104	20	171
16～				19	2	2	23	1	2	103	29	181
18～				20	1	2	24		2	86	8	143
20～				4			16	1	1	96	3	121
22～				3			9		3	96	1	112
合 計	1	0	0	106	22	9	248	5	19	1033	167	1,610

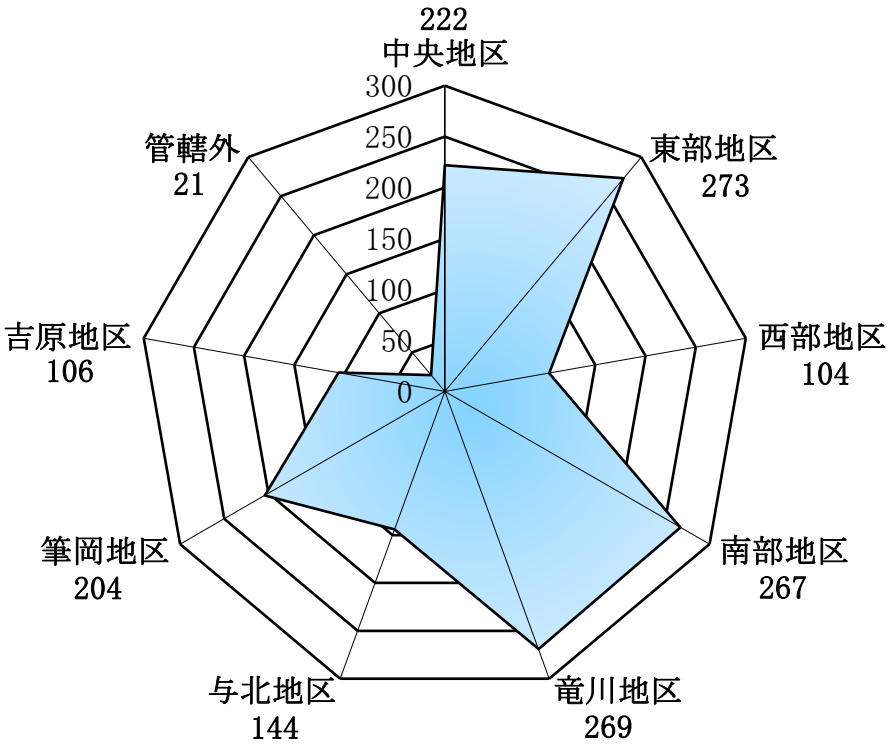
6. 覚知別救急出場状況



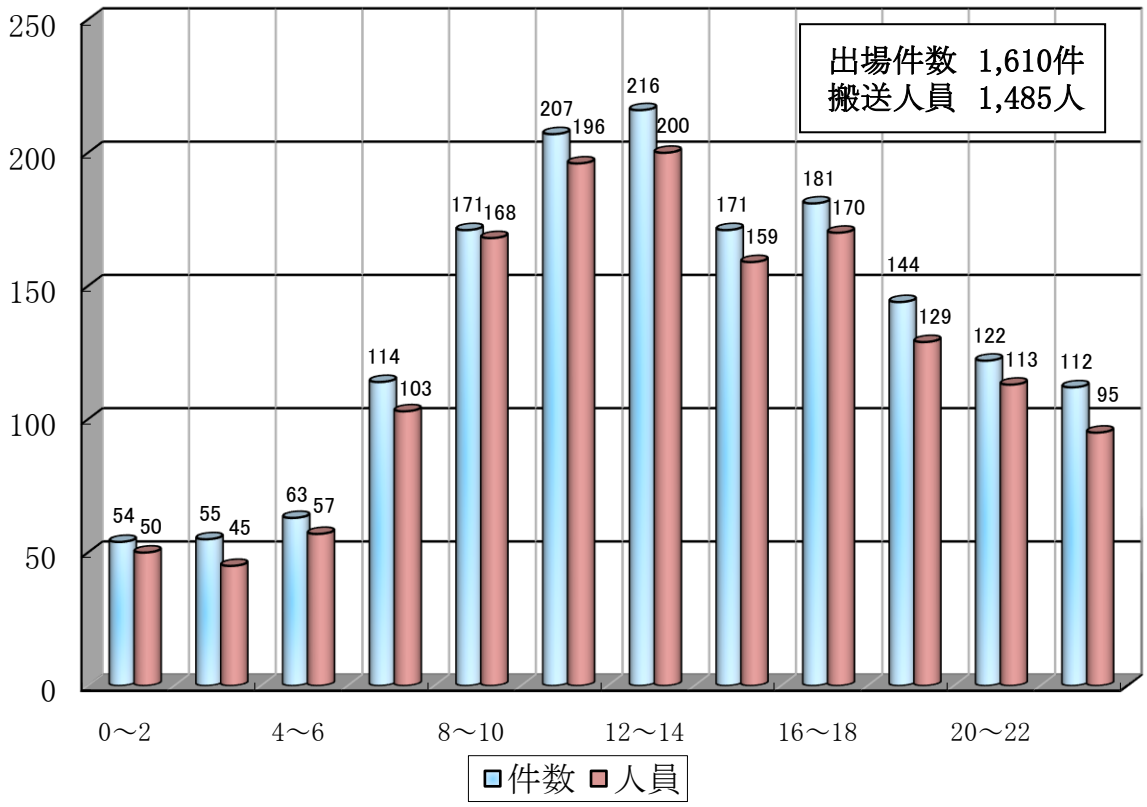
7. 収容者住所別搬送状況

区　　分	死　亡		重　症		中等症		軽　症		その他		合　計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
善通寺市	8	6	64	64	237	245	272	288	0	0	1,184
高松市	0	0	3	0	3	2	9	4	0	0	21
坂出市	0	1	0	1	1	4	0	6	0	0	13
丸亀市	1	0	4	6	14	20	18	14	0	0	77
観音寺市	0	0	2	1	2	3	5	1	0	0	14
三豊市	0	0	5	4	4	9	10	8	0	0	40
東かがわ市	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
さぬき市	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
仲多度郡	0	0	1	4	19	18	19	17	0	0	78
綾歌郡	0	0	0	2	4	2	8	2	0	0	18
小豆郡	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
木田郡	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
香川郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	1	0	3	3	16	11	0	0	35
合　　計	10	7	80	82	287	306	361	352	0	0	1,485

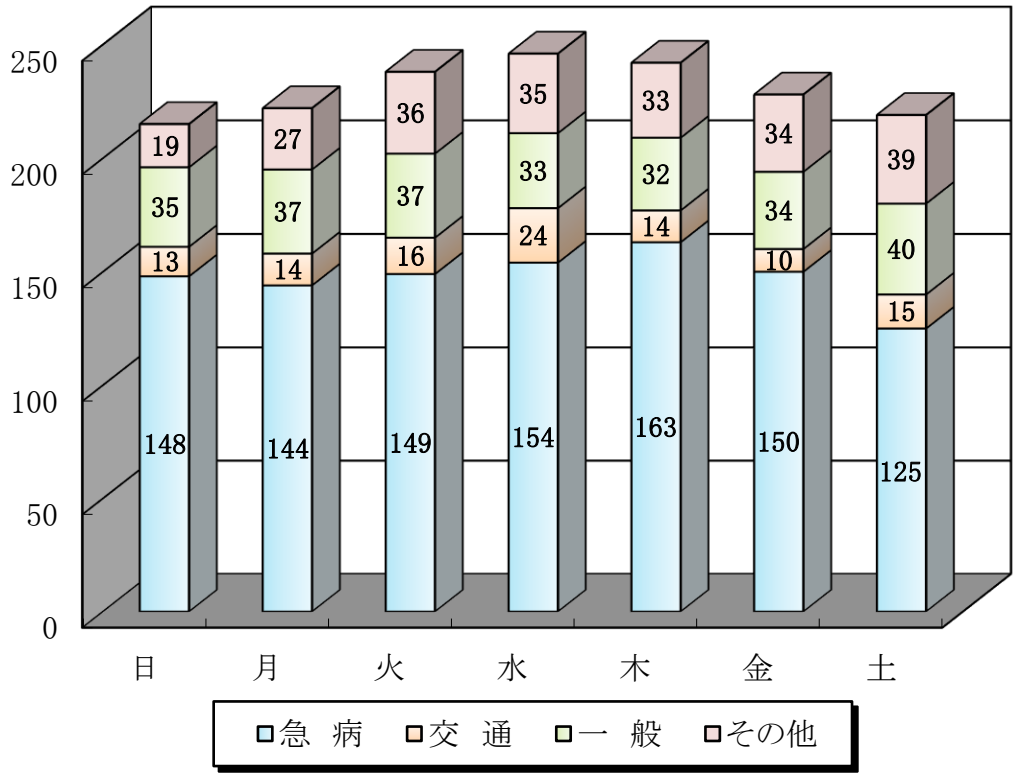
8. 校区別出場状況



9. 時間別救急出場状況(出場件数・搬送人員)



10. 曜日別出場件数



11. 現場到着所要時間別出場状況

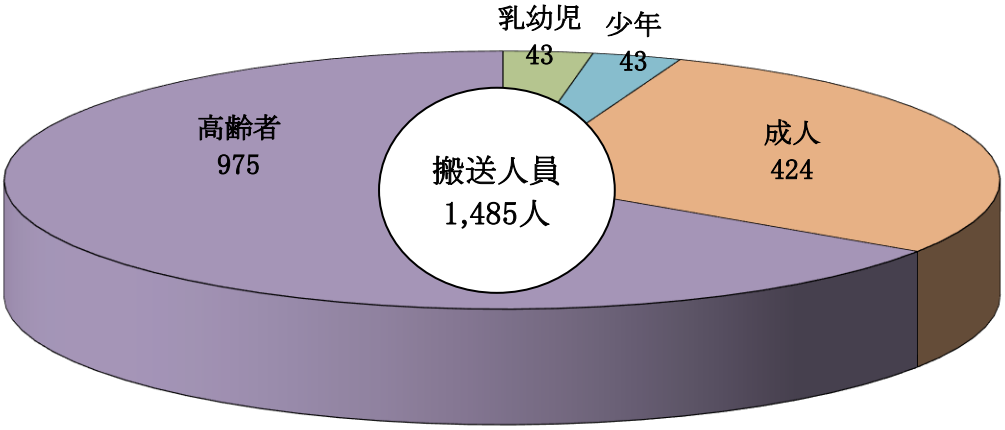
事故種別＼所要時間	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	合　計
急　病	6	26	670	328	3	1,033
交　通		4	62	38	2	106
一般負傷	1	4	161	81	1	248
その他		26	167	29	1	223
合　計	7	60	1,060	476	7	1,610

12. 収容所要時間別搬送状況

所要時間 事故種別	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	合　計
急　　病	1	29	231	585	86	3	935
交　　通	0	3	25	69	5	0	102
一般負傷	0	6	75	138	14	0	233
そ の 他	0	27	99	77	11	1	215
合　　計	1	65	430	869	116	4	1,485

13. 年齢区分別搬送状況

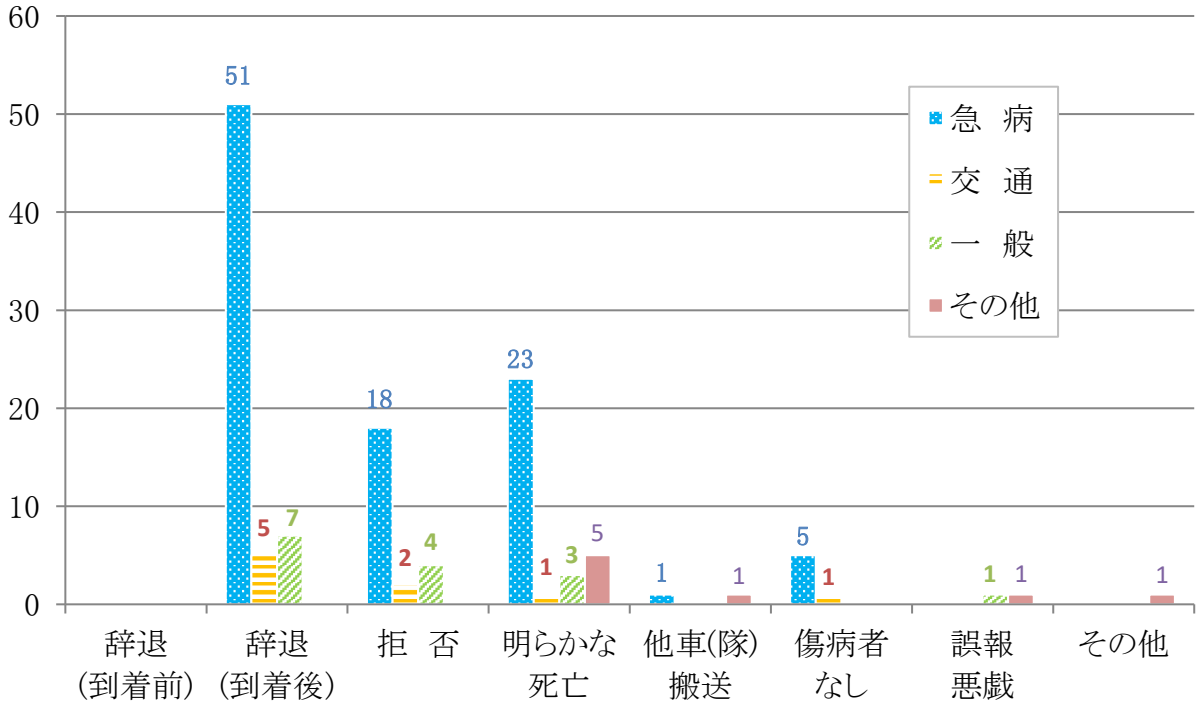
年齢区分
新生児　生後28日未満の者
乳幼児　生後28日以上満7歳未満の者
少年　満7歳以上満18歳未満の者
成人　満18歳以上満65歳未満の者
高齢者　満65歳以上の者



14. 救急隊員の行った応急処置

応急処置＼事故種別	急病	交通	一般	その他	合計
応急処置対象人員	943	101	232	215	1,491
止血	0	4	11	6	21
固定	4	50	40	2	96
人工呼吸	5	0	0	0	5
心肺蘇生	7	1	0	0	8
酸素吸入	186	9	7	35	237
気道確保	20	1	0	0	21
保温	139	16	34	40	229
被覆	1	8	19	3	31
在宅医療継続	0	0	0	0	0
除細動	2	0	0	0	2
心肺停止前の静脈路確保及び輸液	2	1	0	0	3
ブドウ糖投与	0	0	0	0	0
心肺停止後の静脈路確保及び輸液	9	1	0	0	10
アドレナリン投与	8	1	0	0	9
その他の応急処置	78	12	17	14	121
血圧測定	917	100	231	215	1,463
聴診器による聴取	575	69	120	99	863
血中酸素飽和度の測定	915	101	234	215	1,465
心電図	868	61	167	186	1,282
血糖測定	8	0	0	0	8
エピペン投与	0	0	0	0	0
合計	3,744	435	880	815	5,874

15. 不搬送理由別状況



16. 四国横断自動車道における出場状況

区　　分	出場件数(件)	搬送人員(人)	事　故　種　別　(件)
平　成　22　年	12	15	交通事故　9　急病　3
平　成　23　年	12	11	交通事故　9　急病　3
平　成　24　年	11	11	交通事故　9　急病　2
平　成　25　年	6	8	交通事故　4　急病　2
平　成　26　年	11	12	交通事故　9　急病　2
平　成　27　年	6	5	交通事故　5　一般　1
平　成　28　年	11	14	交通事故　9　一般　2
平　成　29　年	10	8	交通事故　8　急病　1　その他　1
平　成　30　年	9	7	交通事故　7　急病　2
平　成　31　年	3	3	交通事故　1　急病　2
令　和　2　年	2	1	交通事故　2　急病　0
令　和　3　年	5	4	交通事故　5　急病　0
令　和　4　年	7	6	交通事故　4　急病　3

管轄区域　高松自動車道(下り線)　善通寺　I.C　～　さぬき豊中　I.C
(上り線)　善通寺　I.C　～　坂出 I.C・坂出 JCT
供用開始　高松自動車道(下り線)　昭和　62年　12月　16日
(上り線)　平成　4年　4月　19日

救助統計

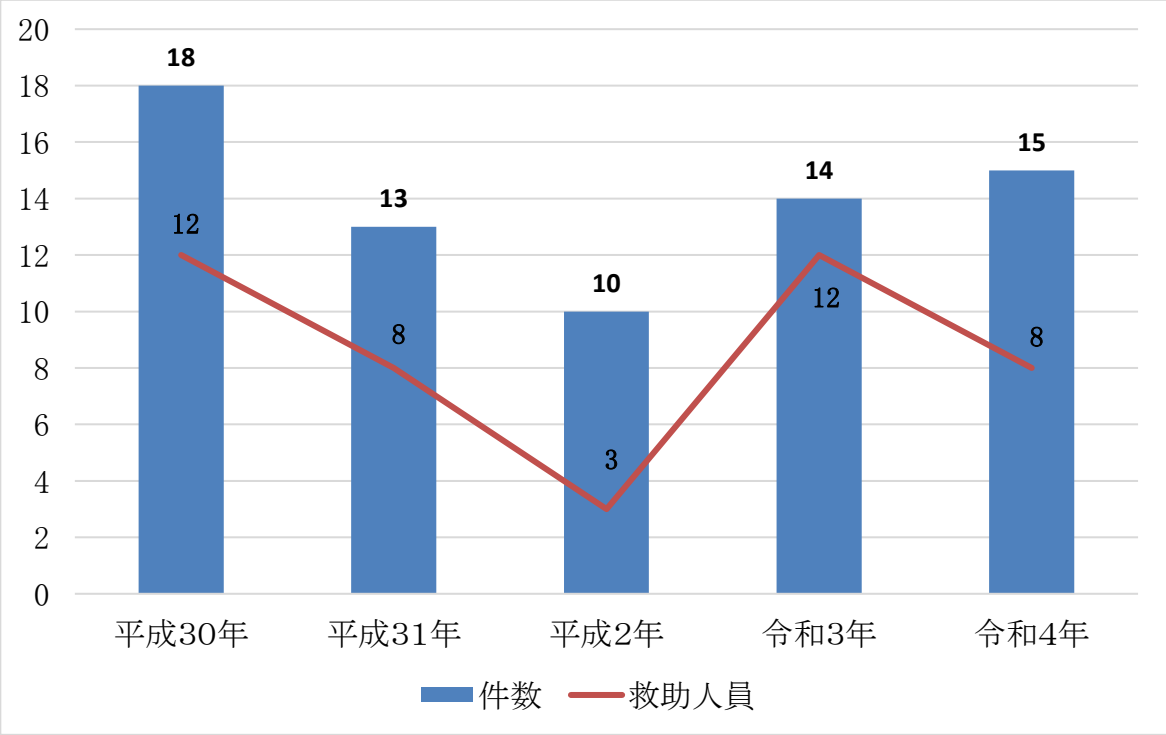
1. 救助出場件数及び救助人員

令和4年中の出場件数は、15件で活動件数は8件、救助人員は8人となっており、月別出場件数は1.2件である。

2. 月別救助出場件数状況

月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出場件数	3	1	0	2	3	1	2	0	1	1	0	1
救助人員	0	0	0	2	3	0	1	0	1	1	0	0

3. 事故種別救助出場件数状況

事故種別／区分	火災		交通事故	水難事故	風水害等自然災害	機械による事故	建物等による事故	酸欠事故ガス及び	破裂事故	その他の事故	合計
	建物	建物以外									
出場件数	0	0	10	0	0	1	2	0	0	2	15
活動件数	0	0	7	0	0	0	1	0	0	0	8
救助人員	0	0	7	0	0	0	1	0	0	0	8

4. 年別救助出場件数及び救助人員状況